

### 3. 准看護師交流会

(1) 日 時 平成29年1月14日 (土) 10:20~15:00

(2) 会 場 千葉県看護会館

(3) テーマ 「准看護師のキャリアアップにむけて」

(4) ねらい

① 日常の看護技術についてスキルアップできる機会とする。

② 進学支援に必要な情報を提供し、進学体験談や交流の場から進学に対して前向きな考えを持つことができる。

(5) 参加者数 57名

(6) 内 容

① 講演「高齢者のスキンケア」

私たちのケアが患者さんの皮膚を守る～高齢者の皮膚の特徴とケアのポイント～

講師 千葉県循環器病センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 鈴木由加看護師長

皮膚の知識、高齢者の皮膚の特徴、高齢者に発生するスキントラブル、スキンケアの基本と具体策などについて、分かりやすく話された。

② 准看護師の進学支援：学校教員などからの説明

- ・ 千葉県立野田看護専門学校 第2看護学科
- ・ 東京衛生学園専門学校 看護学科通信制
- ・ 放送大学学園

③ 体験談

社会医療法人正朋会 穴倉病院 千葉県看護協会理事 山口 規予氏

千葉県立佐原病院 看護師 中留 三奈子氏 (学校進学体験者)

医療法人財団明理会 新松戸中央総合病院 看護師 川村 春香氏 (通信教育体験者)

山口理事は准看護師としての長い経験を踏まえて、後輩へのキャリアアップを期待する熱いメッセージが伝えられた。二人の進学経験者からは、周りの協力を得ながら時間を工夫して学習した体験などが具体的に語られた。

④ 交流会 「これからの私のキャリア」

最初に、一筆箋に「これからの自分」についての希望を書いてもらい、3~4名の少人数のグループに分かれ、予定時間よりも短くなったが和やかな雰囲気に対話が進んでいた。

(7) アンケート結果

参加者55名に対して、アンケート回収47 (回収率 85.5%)。

講演会については、全員が参考になったと回答し、高齢者の皮膚の脆弱性やテープのはがし方やスキントアの処置について具体的に理解できたなどの意見があった。しかし、43名が実践の場で活用できそうと回答したが、そうでない人もおり現場での活用はむずかしいという意見もあった。

進学支援は46名が参考になった、体験談は45名が参考になった、グループワークは45名が良かったと回答した。特に、グループワークは他の施設の准看護師と話せたことや情報交換できたことが良かった理由としてあがった。

44名が交流会は進学・今後のキャリアについて考える機会となったと回答しており、日頃の看護実践に役立つ講演、進学に関する情報提供や体験談、仲間との情報交換や交流は、准看護師の交流会として効果的であり目的を達成できたと評価する。

### Ⅲ 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成28年 8月6日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成28年度職能委員会活動計画及び運営について</li> <li>2. 役割分担等</li> <li>3. 開催予定</li> <li>4. その他</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度活動計画検討・作成</li> <li>・委員の役割・担当</li> <li>・職能集会の運営</li> <li>・看護師交流会の企画・運営</li> <li>・准看護師交流会企画検討</li> <li>・全国職能委員長会報告</li> </ul>
第2回	10月5日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 准看護師の教育支援問題について</li> <li>2. 看護師交流会企画</li> <li>3. 看護師職能集会まとめ・評価</li> <li>4. その他</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山口理事よりヒアリング、意見交換、准看護師交流会企画検討</li> <li>・交流会グループワーク企画検討、運営</li> <li>・看護師職能集会アンケート結果確認、評価</li> </ul>
(臨時)	10月31日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師交流会準備</li> <li>2. 准看護師交流会企画</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師交流会グループ事例検討、グループ分け</li> <li>・准看護師交流会企画・運営</li> </ul>
第3回	11月5日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 准看護師交流会企画・運営</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・准看護師交流会企画決定、運営</li> </ul>
第4回	12月7日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師交流会まとめ・評価</li> <li>2. 准看護師交流会運営</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師交流会アンケート結果確認、評価</li> <li>・准看護師交流会企画・プログラム最終確認、スケジュール・担当者、アンケート確認</li> <li>・地区別職能委員長会報告</li> </ul>
第5回	平成29年 3月23日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 准看護師交流会まとめ・評価</li> <li>2. 平成28年度委員会活動まとめ・評価</li> <li>3. 平成29年度年間計画検討</li> <li>4. その他</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・准看護師交流会アンケート結果確認、評価</li> <li>・平成28年度活動報告</li> <li>・平成29年度年間活動目標、計画検討、今後の中期的計画案検討</li> <li>・全国職能委員長会報告</li> </ul>

IV 平成29年度 看護師職能委員会 I（病院領域） 活動計画

項 目	内 容	
活動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師が専門性を発揮しながらやりがいを持って働き続けることができるよう、看護師職能 I（病院領域）が抱える課題に取り組む。</li> <li>2. 看護の質向上を図るために、准看護師のスキルアップと進学を支援する。</li> <li>3. 社会医療制度の動向を踏まえ、看護師職能 I（病院領域）の看護の役割を考え、質向上に向けて検討する。</li> </ol>	
委員会開催予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師職能 I（病院領域）委員会 年6回</li> <li>2. 看護師職能 I・II 合同委員会 必要時</li> <li>3. 三職能合同委員会 必要時</li> </ol>	
検討事項及び方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職能委員会の中期的な活動目標・計画を踏まえ、活動の成果を可視化していく。具体的には、地域包括ケアにおける病院領域看護師の役割を明確にするため、看護師交流会の中期的計画を以下の通りとする。  <u>平成28年度</u> 地域包括ケアの理解を深めた。  <u>平成29年度</u> 看取りの意思決定支援をテーマに、領域 II と交流会を合同開催する。  <u>平成30年度</u> 看護師職能 I・II の連携により、地域ごとの顔の見える関係を強化し、事例を報告できる</li> <li>2. 看護師職能 I（病院領域）の看護師が働き続けられる職場づくりを推進し、看護師の抱える課題を整理する。</li> <li>3. 看護師職能では、看護管理者の役割（H28年度日本看護協会職能 I で取り組んだ課題）について理解を深める機会とする。</li> <li>4. 准看護師交流会を通して、准看護師のスキルアップと進学支援を推進し、交流会実施後の進学状況に関する事後アンケートを実施し、スキルアップ・進学に関する課題を抽出する。</li> </ol>	
職能集会交流会等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師職能 I（病院領域）集会 年1回開催 9月頃</li> <li>2. 看護師交流会 1回 領域 II と合同開催 11月頃</li> <li>3. 第23回准看護師交流会開催 平成30年1月頃</li> </ol>	
そ の 他	日本看護協会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 千葉県看護協会看護師職能 I（病院領域）委員会活動状況報告</li> <li>2. 日本看護協会看護師職能 I（病院領域）の調査活動に協力</li> <li>3. 都道府県看護協会職能委員長会 年2回</li> <li>4. 地区別法人会・看護師職能委員長会 年1回</li> </ol>
	印刷物等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職能集会資料</li> <li>2. 交流会資料</li> <li>3. 職能委員会ホームページの記事掲載および更新</li> <li>4. その他</li> </ol>
	そ の 他	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 千葉県看護協会事業への参加・協力</li> <li>2. 千葉県小児保健協会理事会・総会への参画</li> </ol>

# 看護師職能委員会（領域Ⅱ）

委員長 山崎潤子

## I 活動目標

1. 介護・福祉関係施設・在宅等領域の看護の役割を考え、看護の質向上に向けた取り組みを行う。
2. 千葉県内の介護施設の実態を把握し、領域Ⅱの看護師職能が抱える課題を抽出する。

## II 活動内容

### 1. 職能集会

- (1) 日時 平成28年10月7日(木) 13:30～16:30
- (2) 会場 千葉県土地改良会館 4階大会議室
- (3) テーマ 「介護・福祉関係施設、在宅等におけるリスクマネジメント」
- (4) ねらい
  1. 看護師職能委員会(領域Ⅱ)の活動報告と今後の方針を知る
  2. 介護・福祉関係施設、在宅等におけるリスクマネジメントの理解
  3. 介護・福祉関係施設、在宅等の看護職としてリスクマネジメントの役割を知る
- (5) 内容
  - ・活動方針・活動計画の説明 看護師職能委員長(領域Ⅱ)
  - ・入会案内 千葉県看護協会会員増促進委員会 委員長 石井久美子氏
  - ・講演 「介護・福祉関係施設、在宅等におけるリスクマネジメント」  
あたご研究所 所長 後藤 佳苗氏
  - ・グループワーク  
介護・福祉関係施設、在宅等におけるリスクマネジメントの看護師の役割とは
- (6) 参加者数 22名
- (7) 評価

領域Ⅱでは施設内での医療職が少なく組織体系も病院とは異なることから、医療行為に関するリスクマネジメントが不十分な施設が多い現状があり、このテーマで実施した。講演は、元行政保健師で介護保険施設のケアマネジメントに詳しい後藤佳苗氏にお願いした。リスクマネジメント概論にとどまらず、介護現場におけるリスクの特徴、医療職と介護職の役割分担と連携の強化、高齢者・介護保険を取り巻く状況を踏まえたリスクマネジメントについて学ぶことが出来た。

講演後は、施設種別ごとにグループワークを行い、自施設でのリスクマネジメントでの看護師の役割についてディスカッションを行った。グループワークでは、看護職として出来ること、やらなければならないことの建設的な意見が多く出て、有意義な時間となった。

参加者の受講意欲や満足度も高く、また同じ講師の話を知りたいという意見や、今回聞くことが出来なかった災害対策などを知りたいという意見もあった。満足度が高かった分、参加者が少なかったことが残念であった。

### (8) アンケート結果

#### ① 年齢及び職種の経験年数

##### 1) 年齢

20歳代	0
30歳代	4
40歳代	6
50歳代	12
60歳代以上	0

##### 2) 職種の経験年数

1～5年	2
6～10年	1
11～15年	5
16年以上	12

② 勤務先の種類

特養	3	グループホーム	0
老健	13	有料老人ホーム	0
訪看	5	サ高住	0
療養型	0	デイサービス	1
小規模多機能	0	障害者支援	0
ケアハウス	0	その他	0

③ 職位

施設管理者	4
部長	1
師長	0
主任	7
スタッフ	9
その他	0

④ 看護師職能(領域Ⅱ)の活動説明に興味が持てましたか。

はい	22
いいえ	0

- ・ 施設勤務看護師間の意見交換や情報共有の場を増やしてほしい。
- ・ 施設に特化しているので身近
- ・ グループワークで他施設の方と情報交換できた
- ・ 領域Ⅱの活動がもっと活性化すると良い

⑤ 講演内容は理解できましたか 活用できますか

理解した	10
ほぼ理解した	11
あまり理解できない	0
できない	0

おおいに活用できる	7
活用できる	15
あまりできない	0
できない	0

講演時間は適当でしたか

はい	20
いいえ	2

【その他・ご意見】

- ・ 医療外行為以外のリスクについても学びたかった
- ・ 本日の講師の話をもっと聞きたい。
- ・ とても分かりやすかった。

⑥ グループワークについて

満足	12
ほぼ満足	10
普通	0
やや不満	0
不満	0

【理由】

- ・ 他施設の話が聴けてよかった
- ・ 意見交換が活発だった
- ・ 難しいと思ったが意見が聴けてよかった
- ・ 他施設の現状がわかった
- ・ 時間が足りなかった

⑦ 今後「領域Ⅱ」で取り上げてほしいテーマ

- ・ コンプライアンス
- ・ 褥瘡ケア(5名)
- ・ 看取り(3名)
- ・ 認知症(7名)

- ・ 認知症ケア加算
- ・ 嚥下予防
- ・ 終末期(2名)

⑧ 現在、領域Ⅱで働く看護師として困っている事、課題は何ですか

- ・ 介護職との連携(3名)
- ・ 病院の看護師に軽くみられる
- ・ 看護師と介護士の考え方の差
- ・ 職場内に意識の低い人がいる
- ・ 看護職としての誇りを持ってない人がいる
- ・ 介護職への指導

⑨ 今後も職能(領域Ⅱ)集会に参加を希望しますか

はい	22
いいえ	0

【理由】

- ・ Ⅱ領域の人の意見交換の場が少ない
- ・ 施設に特化した研修が少ないため

⑩ 参加しやすい日時はいつですか

平日	14
土曜日	4
日祝	1
いつでも可	5

午前	1
午後	6
どちらでも可	11

⑪ 千葉県看護協会への要望

- ・ 駐車場のある場所での研修を望む

## 2. 交流会

(1) 日 時 平成28年12月1日(木) 13:30~16:30

(2) 会 場 千葉県看護協会 中研修室

(3) ねらい ① 介護・福祉関係施設、在宅等における看取りの概念・対応方法を再認識する  
② 看護職として他職種への指導や教育、連携についての役割を学ぶ

(4) テーマ 「介護・福祉関係施設、在宅等における看取りを取り巻く現状」

(5) 内 容

- ・ 講演 「看取りを取り巻く現状と看護師の役割」  
千葉県立保健医療大学 杉本 知子 氏
- ・ グループワーク 高齢者施設等の看取りケアにおける看護職の役割

(6) 参加者数 24名

(7) 評 価

施設での看取りが社会からの要請となっている状況から、昨年度に引き続き「看取りケア」をテーマとした。昨年は、高齢者の特徴などケアの基本について学んでいるので、今年は看取りを取り巻く状況について講演していただいた。講師からは、施設での実態調査など貴重な情報の提供があり、看取りケアに取り組む動機づけをしていただいた。

グループワークでは、現に看取りを行っている施設や、これから行おうとしている施設などさまざまであったが、「他施設の現状が聞けて参考になった」などの意見があった。組織の課題を抱えている施設もあり、

すぐに看取りに取り組むのは困難という意見もあったが、その中でも看護職として今出来ることを検討することが出来、前向きな討議が出来ていた。

参加者数を増やすため、通常のご案内のみでなくチラシを作成するなどしてみたが、効果があったとは言えなかった。領域Ⅱの看護職が関心を持つテーマの検討や、案内方法などの検討が必要と思われ、今後の課題である。

(8) アンケート結果

① 年齢及び職種の経験年数

1) 年齢	20代	2	2) 職種の経験年数	1～5年	3
	30代	3		6～10年	2
	40代	9		11～15年	5
	50代	3		16年以上	4
	60歳以上	0		無回答	3

② 勤務先の種類

特養	1	グループホーム	0
老健	13	有料老人ホーム	0
訪看	3	サ高住	0
療養型	0	デイサービス	0
小規模多機能	0	障害者支援	0
ケアハウス	0	その他	0

③ 職位

施設管理者	0
部長	0
師長	0
主任	3
スタッフ	13
ケアハウス	0

④ 講演内容は理解できましたか

理解した	6
ほぼ理解した	10
あまり理解できない	0
できない	0
無回答	1

活用できますか

おおいに活用できる	3
活用できる	8
あまりできない	1
できない	0
その他	2
無回答	3

【その他・ご意見】

- ・ 困っている
- ・ わからない
- ・ 老健とは、病院から在宅までのADL向上の役割は終わったのか？
- ・ Drが一人しかおらず、信用が置けない環境で看取りは可能か？

講演時間は適当でしたか

はい	16
いいえ	1

【ご意見】

- ・ もう少し欲しかった

⑤ グループワークについて

満足	8
ほぼ満足	9
普通	0
やや不満	0
不満	0

【理由】

- ・ 他施設でのターミナルケアの現状について話し合う事で、ご家族ご本人のニーズに沿った支援の大切さを再確認した。
  - ・ 他の施設の方の意見をたくさん聞けて安心するところと勉強になるところとあってよかったです。
- ⑥ 今後「領域Ⅱ」で取り上げてほしいテーマ
- ・ 褥瘡ケア(4名)：褥瘡ケアとポジショニング
  - ・ 認知症(3名)：周辺症状へのケア。ファミリーとの関わり。
  - ・ 食事(2名)：嚥下機能低下の方の食事介助。食事がとれない人をどうするか。
  - ・ 感染症
  - ・ ナースの役割
  - ・ ターミナル
  - ・ 看取り以外での施設ナースの役割
- ⑦ 現在、領域Ⅱで働く看護師として困っている事、課題は何ですか
- ・ 連携
  - ・ 人材不足
  - ・ スキルアップ
- ⑧ 今後も職能(領域Ⅱ)集会に参加を希望しますか

はい	14
いいえ	0
無回答	3

- ⑨ 参加しやすい日時はいつですか

平日	12
土曜日	0
日祝	0
いつでも可	4
無回答	1

午前	0
午後	3
どちらでも可	6
無回答	8

- ⑩ 千葉県看護協会への要望

- ・ 研修ではなく、転職相談日を設けていただけたらと思います。

3. 実態調査

委員会活動を行っていくうえで、基礎的な資料が少なく、千葉県での領域Ⅱの課題を抽出するため、実態調査を計画した。自施設内外での研修受講状況や、業務内容での困りことなど、今後の研修の計画に生かせる内容を中心に質問票を作成した。平成28年12月～1月にかけて調査票を配布、およそ300件の回答を得た。



### Ⅲ 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成28年 7月12日	1. 平成28年度活動計画 2. 委員の役割分担 3. 看護師職能集会について 4. 実態調査について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の紹介と、役割分担の確認</li> <li>・平成27年度活動の振り返りと平成28年度計画の検討</li> <li>・職能集会打ち合わせ</li> <li>・実態調査打ち合わせ</li> <li>・看護協会ホームページの職能ページについて</li> </ul>
第2回	8月4日	1. 看護師職能集会について 2. 実態調査について 3. 看護師交流会について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職能集会打ち合わせ</li> <li>・実態調査の概要の検討</li> <li>・交流会打ち合わせ</li> <li>・全国職能委員長会報告</li> </ul>
第3回	9月8日	1. 看護師職能集会について 2. 看護師交流会について 3. 実態調査について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職能集会打ち合わせ</li> <li>・交流会打ち合わせ</li> <li>・実態調査の調査内容の検討</li> <li>・看護協会ホームページの職能ページについて</li> </ul>
第4回	10月7日	1. 看護師職能集会について 2. 看護師交流会について 3. 実態調査について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師職能集会最終打ち合わせ</li> <li>・交流会打ち合わせ</li> <li>・実態調査の調査内容の検討</li> <li>・看護協会ホームページの職能ページについて</li> </ul>
第5回	11月10日	1. 看護師職能集会の振り返り 2. 看護師交流会について 3. 実態調査について 4. 次年度計画について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師職能集会のまとめ・評価</li> <li>・看護師交流会打ち合わせ</li> <li>・実態調査の調査票の検討</li> <li>・平成29年度活動計画の検討</li> <li>・地区別職能委員長会の報告</li> </ul>
第6回	12月1日	1. 看護師交流会について 2. 実態調査について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師交流会最終打ち合わせ</li> <li>・実態調査の調査票最終確認と配布方法について</li> </ul>
第7回	平成29年 2月2日	1. 看護師交流会最終打ち合わせ 2. 実態調査の調査票最終確認と配布方法について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師交流会のまとめ・評価</li> <li>・実態調査の調査票回収状況の報告</li> <li>・平成28年度活動内容のまとめ・評価</li> <li>・平成29年度活動計画の検討</li> </ul>

IV 平成29年度 看護師職能委員会（領域Ⅱ）活動計画

項 目		内 容
活動目標		1. 介護・福祉関係施設・在宅等領域の看護の役割を考え、看護の質向上に向けた取り組みを行う。 2. 千葉県内の介護施設の実態を把握し、領域Ⅱの看護師職能が抱える課題を抽出する。
委員会開催予定		1. 看護師職能委員会(領域Ⅱ) 年6回 2. 看護師職能領域Ⅰ・Ⅱ合同委員会 必要時 3. 三職能合同委員会 必要時
検討事項及び方法		1. 看護師職能領域Ⅱ集会の開催 2. 看護師職能領域Ⅱ交流会の開催 3. 介護・福祉関係施設・在宅等領域の看護の実態調査
そ の 他	日本看護協会	1. 千葉県看護協会看護師職能委員会領域Ⅱの活動状況報告 2. 日本看護協会看護師職能委員会領域Ⅱの調査活動に協力 3. 都道府県看護師職能委員長会 年2回 4. 地区別看護師職能委員長会 年1回
	印刷物等	1. 職能集会資料 2. 交流会資料 3. その他
	その他	1. 千葉県看護協会事業への参加・協力 2. 千葉県小児保健協会理事会・総会への参画

平成 28 年度 千葉県看護協会 看護師職能委員会 領域Ⅱ  
千葉県内の介護・福祉関係施設、在宅領域等で働く看護職員の実態調査  
調査票

高齢化の進展に伴い、地域包括ケアシステムが推進される中、介護・在宅領域における看護への期待が一層高まっています。

平成 27 年度より設置された、千葉県看護協会看護師職能委員会領域Ⅱでは、【介護・福祉関係施設、在宅等領域】の抱えるさまざまな課題の解決に向けた取り組みを、皆様とともに考えていきたいと考えています。

そこで、千葉県内の高齢者ケア施設や在宅等で働く看護職員が日々感じている課題を本調査にてお聞きし、今後の看護師職能委員会 領域Ⅱの研修等の活動につなげていきたいと考えます。

御記入にあたっての下記の注意事項をご確認のうえ、本調査に協力をお願い致します。

**返送期限：平成 28 年 12 月 28 日（水）**

なお、本調査は、回答者の個人情報を守るため、記入後返信用封筒に入れ返送下さいますようお願いいたします。

調査票の返送をもって、調査への参加に同意いただいたものとさせていただきます。

【御記入にあたっての注意事項】

- ・管理者の方は、各職員の回答の取りまとめに御協力ください。同封の返信用の封筒にて返送ください。
- ・回答者は、回答票を封筒に入れ、封をして管理者の方に御提出ください。
- ・この調査は、各施設および事業所に所属する **6 名の看護職員にご回答願います**。ただし、職員数が 6 名以下の場合には所属の看護職員全員を対象とさせていただきます。(調査票が不足する場合にはコピーして御用ください。)
- ・6 名以上の職員がいる場合には、各施設及び事業所で回答者の選出をお願いします。回答人数分の質問紙を同封しております。なお、回答者の常勤・非常勤は問いません。
- ・本調査における「看護職員」とは、看護師免許、准看護師免許を持つ職員のことです。免許を持たない看護補助者は含みません。
- ・該当する項目に○をつけ、( ) 内には該当する数字または文字をご記入下さい。(なお、○をつける数は各設問の最後に記載してあります。)
- ・特に、期日・期間の指定のない項目については、直近の状況についてご記入ください。

<本調査のお問い合わせ先>

公益社団法人 千葉県看護協会 看護師職能委員会 (領域Ⅱ)  
千葉市美浜区新港 249-4 TEL 043(245)1744 担当：荒木

1、ご回答いただく方についてうかがいます。(各項目○は1つ)

問 1 年齢について教えてください。

1 20 歳代 2 30 歳代 3 40 歳代 4 50 歳代 5 60 歳以上

問 2 性別について教えてください。

1 女性 2 男性

問 3 保有資格はどれですか。

1 保健師 2 助産師 3 看護師 4 准看護師

問 4 専門看護師・認定看護師の有無について教えてください。

1 専門看護師 (領域: ) 2 認定看護師 (領域: )  
3 なし

問 5 職位について教えてください。

1 施設長 2 事業管理者 (訪問看護ステーション等) 3 管理職 (看護部長)  
4 中間管理職 (師長・主任) 5 スタッフ

問 6 看護職としての経験年数について教えてください。

1 3 年未満 2 3~10 年未満 3 10~20 年未満 4 20~30 年未満  
5 30~40 年未満 6 40 年以上

問 7 介護・福祉関係施設、在宅等領域 (病院以外) での勤務年数について教えてください。(他県、通算可)

1 3 年未満 2 3~5 年未満 3 5~8 年未満 4 8~11 年未満  
5 11 年以上

問 8 雇用形態はどちらですか。

1 正規職員 2 非正規職員

2、現在勤務している施設・事業所についてうかがいます。(各項目○は1つ)

問 9 勤務先はどこですか。

1 介護老人保健施設 2 特別養護老人ホーム 3 有料老人ホーム  
4 養護老人ホーム 5 訪問看護ステーション 6 学校 7 行政  
8 グループホーム 9 デイサービス 10 その他 ( )

3、施設・事業所の看護職員向けの研修についてうかがいます。

問 10 今の仕事で、看護職員向けの研修等の必要性を感じますか。(○は1つ)

その理由を( )内に記入してください。

1 感じる ( )  
2 感じない ( )

問 11 昨年度 (平成 27 年度) 中に、自施設や同一法人内での看護系の研修・勉強会はありましたか。(○は1つ)

1 あった 2 なかった

問 12 問 11 で 1 あったと回答した方についてうかがいます。

施設や同一法人内での看護系の研修・勉強会に参加しましたか。(いずれかに○をして参加した場合は、参加回数を( )内に記入してください。)

1 参加した( )回 2 参加しなかった

問 13 昨年度 (平成 27 年度) 中に、施設外での看護系の研修に参加しましたか。

(○は1つ) 参加した場合は、参加回数を( )内に記入してください。

1 参加した( )回 2 参加しなかった

問 14 問 13 で 1 参加したと回答した方に伺います。

それは千葉県看護協会の主催する研修でしたか。(いずれかに○をしてください)

1 はい 2 いいえ

問 15 問 13 で 2 参加しなかったと回答した方についてうかがいます。

看護系の施設外研修に参加しなかった理由を教えてください。(複数回答可)

1 必要性を感じなかった 2 希望の研修内容がなかった  
3 研修場所が遠方だった 4 仕事や家庭のことで忙しかった  
5 研修があることがわからなかった 6 研修料金が高額  
7 その他 ( )

問 16 施設外研修に参加する場合、参加しやすい日を教えてください。(複数回答可)

1 いつでも良い 2 土曜日・日曜日の日中 3 土曜日・日曜日の夕方  
4 平日の日中 5 平日の夕方 6 祝日の日中 7 祝日の夕方  
8 わからない 9 その他 ( )

問 17 施設外研修に参加する場合、参加しやすい時間帯を教えてください。(複数回答可)

1 いつでも良い 2 午前中 3 午後 4 夕方～夜 5 わからない  
9 その他 ( )

問 18 施設外研修で興味のある項目はどれですか。(複数回答可)

1 フィジカルアセスメント 2 リハビリテーション 3 看取り 4 認知症  
5 高齢者理解 6 看護の役割 7 摂食・嚥下障害 8 急変時の対応  
9 感染管理 10 褥瘡ケア 11 排渇ケア 12 エンゼルケア・メイク  
13 医療技術・看護ケア ( )  
14 看護倫理 15 看護管理 16 安全管理 (医療安全) 17 制度・関連法規  
18 がん看護 19 緩和ケア 20 他職種連携・協働 21 家族看護  
22 看護研究 23 看護過程 24 退院・退所支援 25 意思決定支援  
26 コミュニケーションスキル 27 臨地実習指導  
25 その他 ( )

4、施設・事業所の看護ケア、業務内容についてうかがいます。

問 19 施設・事業所において、医療処置や看護ケアでお困りのことはありますか。

(自由記載)

5、千葉県看護協会 看護師職能委員会領域Ⅱについてうかがいます。

問 20 看護師職能委員会領域Ⅱの主催する研修についての要望をお聞かせください。

(自由記載)

6、千葉県看護協会についてうかがいます。

問 21 あなたは千葉県看護協会に入会されていますか。

1 入会している 2 入会していない

問 22 問 21 で 2 入会していないと回答した方についてうかがいます。

その理由を教えてください。

(自由記載)

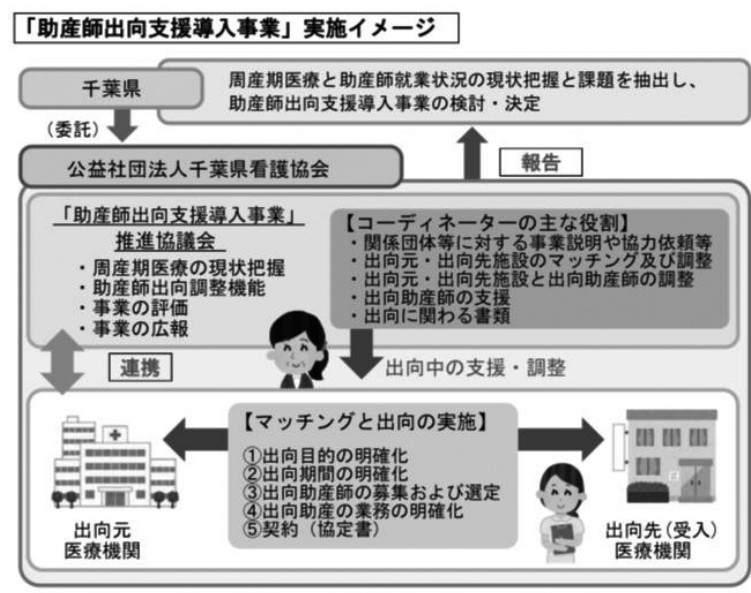
問 23 千葉県看護協会 看護師職能委員会領域Ⅱから提言して欲しいことはありますか。

(自由記載)

以上でアンケートは終わります。  
返信用封筒に入れて、平成 28 年 12 月 28 日 (水) までにお返送をお願い致します。  
御協力ありがとうございました。

# 平成28年度助産師出向支援導入事業

1. 目的 助産師就業の偏在把握や助産師出向の検討等を行い、千葉県における助産師就業の偏在解消、助産実践能力の強化及び助産学生等の実習施設確保等を図る。



## 2. 実施内容

### (1) 助産師出向支援導入事業推進協議会の開催

	協議内容・決定事項等
第1回 (H28. 6. 13)	① 千葉県の周産期医療の現状及び助産師出向支援事業に関する意向調査結果報告 ② 出向目的について協議・決定（研修目的出向） ③ 出向元施設及び出向先施設の決定 ④ 今後のスケジュールの確認
第2回 (H28. 12. 1)	① 本事業における進捗状況報告及び中間評価（自己評価・他者評価） ② 本出向における目標設定について協議・確認
第3回 (H29. 3. 7)	①本事業における進捗状況報告及び評価 ②報告書について

### (2) 助産師出向支援（コーディネート・サポート）

- ・ 出向元・出向先施設の調整
- ・ 出向元・出向先施設間の契約（協定）締結に係わる対応
- ・ 出向先の準備の支援（マニュアルの作成等）
- ・ 出向中の出向元・出向先施設および出向助産師の相談対応
- ・ 評価

## 3. 助産師出向の実際

### (1) 助産師出向者数：1名

- i 経験年数2年目（産科閉鎖中の為、実質10ヶ月間程度の経験）
- ii 助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベル新人～I程度

### (2) 出向元施設数：社会福祉法人恩賜財団済生会千葉県済生会習志野病院

### (3) 出向先施設数：独立行政法人地域医療機能推進機構船橋中央病院

### (4) 出 向 期 間：平成28年8月1日～平成29年3月31日

#### 4. 評価

本事業における「研修目的出向」はおおむね達成した。

出向の成功には本人の資質によるところも大きいですが、本出向では近隣施設間での出向ということで、出向助産師が生活を変えずに出向できたこと、また近くに同僚等もおりガス抜きしやすい状況であったことも功を奏していた。生活状況の支援をする場合にはその点も加味して見守っていく必要がある。

また、今回はクリニカルラダーレベル新人～レベルⅠの出向助産師の研修目的出向であり、出向先施設がその成長支援を実感できるには8ヶ月間は短い期間であった。

出向助産師の技術到達度の評価認識（自己評価）においては、他者評価者である指導者からの適切な助言、未熟部分の示唆による内容の理解の深まりや課題の明確化が図れ、自己評価達成レベルが出向開始初期より明確になった。すなわち他者から求められる「一人でできる」レベルと自己認識による到達レベルが徐々に合致し、「一人でできる」とする項目は確実に高いレベルで習得できているものとなった。従って本事業の助産師の資質向上のための研修目的出向は達成できたと考える。

#### 5. 今後の課題

##### (1) 事業に関する理解

事前準備段階でのヒアリング、出向先施設・出向元施設との細部にわたる協議が必要である。出向先施設・出向元施設の協議では、給与や身分等に関する調整も必要であるため、施設管理者及び事務担当者も含めて協議することが望ましい。

##### (2) 効果的な出向のための情報収集

出向目的と助産師のクリニカルラダーレベルを踏まえ、出向期間内に経験（実践）できるように、出向先施設の業務実践に必要な要件や資格などをより具体的に事前に把握し、提供することが望まれる。

##### (3) 出向助産師にあわせた柔軟な環境の整備

昨今、個人のライフイベントに応じて働き方を選択できる多様な勤務形態の導入が推進されている中、出向事業においても出向元と同様の勤務形態等を望む助産師も多い。出向先施設でも短時間勤務や時差出勤等柔軟に対応できるか否かは重要である。

また出向期間についても、出向元施設としては人材不足等の背景から、短期間出向の希望が多いため、施設間で出向期間を設定し、期間中複数の出向助産師が交代で出向するなど、柔軟な出向環境の整備も求められている。

##### (4) 出向支援にかかる支援体制の整備

出向システムを継続するには、必要経費の助成を含む自治体や職能団体の支援が不可欠である。

##### (5) 事業の調整役となるコーディネーターの確保

出向元・出向先との調整、出向助産師の相談役、行政や関係機関との調整等々に、コーディネーターは不可欠であり、さらにそれを支える事務職員の力も大きい。助産師数が不足し、その数が地域偏在化している本県にとって、助産師の役割を熟知し、調整能力を有する人材の確保は課題である。

\*詳細は、『平成28年度助産師出向支援導入事業報告書（千葉県委託事業）』による。

# 公益社団法人日本看護協会関係報告

会 長 星 野 恵 美 子

## 法人会報告及び職能委員長会報告

### I 法人会員会（全国）

#### 1 平成28年度 第1回法人会員会

日 時 平成28年5月13日(金) 15:00～16:00  
場 所 JNAホール・会議室  
議 題 地域医療介護総合確保基金事業に関する  
データの集計・分析進捗状況について

#### 2 平成28年度 第2回法人会員会

日 時 平成28年7月29日(金) 13:00～16:00  
場 所 JNAホール・会議室  
議 題 (1) 平成28年度地区別法人会員会プログラ  
ム（案）について  
(2) 看護師4年制教育の働きかけにつ  
いて  
(3) 地域の政策力強化について  
(4) ナースシップ移行に伴う情報共有に  
ついて

#### 3 平成28年度 第3回法人会員会

日 時 平成28年9月23日(金) 15:00～16:00  
場 所 JNAホール  
議 題 (1) 地域における政策力強化について  
(2) その他

#### 4 平成28年度 第4回法人会員会

日 時 平成28年11月25日(金) 13:00～16:00  
場 所 JNAホール・会議室  
議 題 (1) 今後の看護職養成に関する方針につ  
いて  
(2) 平成28年度将来構想特別プロジェクト  
／組織強化事業検討プロジェクトからの  
提案：入会促進事業等について  
(3) その他

### 5 平成28年度 第5回法人会員会

日 時 平成29年2月17日(金) 14:00～16:00  
場 所 JNAホール  
議 題 (1) 平成29年度地域の政策力強化に関す  
る事業について  
(2) 研修における外部事業者との連携に  
ついて  
(3) その他  
・認知症地域医療支援事業における  
看護職員認知症対応力向上研修の実  
施状況調査の協力について

### II 地区別法人会員会（関東甲信越地区）

日 時 平成28年10月27日(木) 9:30～15:00  
場 所 軽井沢プリンスホテルウエスト  
法人会員連絡会 9:30～12:30  
法人会員会 10:30～18:10  
議 題 (1) 今後の看護職養成に関する本会方針  
について  
(2) 地域における看護政策力強化につ  
いて（基金への対応、地域医療構想へ  
の対応を含む）  
(3) 認定看護師教育および特定行為研修  
の実施に関する検討について  
(4) 新「会員情報管理体制」移行に関す  
る進捗報告  
(5) その他  
懇親会 18:30～20:30

## 職能委員長会報告

### I 全国職能委員長会

#### 1 平成28年度第1回全国職能委員長会

日 時 平成28年8月3日(水) 10:00~16:00

場 所 フクラシア品川クリスタルスクエア

(全体会) 10:00~12:00 (ホールA)

10:10~10:20 会長挨拶

10:20~11:40 報告事項

・平成28年度の本会重点政策・重点事項について

・新『会員情報管理体制』について

11:45~12:00 質疑応答

〈保健師職能委員長会〉 13:00~16:00 (F会議室)

議 題

(1) 平成28年度日本看護協会保健師関連事業について

(2) 平成28年度保健師職能委員会活動について

(3) 保健師のネットワークの強化について

(4) 鼎談・ディスカッション

「自治体保健師の標準的なキャリアラダーとキャリアパス 今後の活用を図る上で重要となるポイントとは!? ~適切に理解するためのガイドを踏まえて~」

① 趣旨説明

② 鼎談

③ ディスカッション

④ 委員長まとめ

〈助産師職能委員長会〉 13:00~16:00 (G会議室)

議 題

(1) 平成28年度重点政策・重点事業(助産関連事業)について

(2) 平成28年度助産師職能委員会について

(3) 文京区における災害時の「妊産婦・乳児救護所」の取り組みについて

(4) 東日本大震災及び熊本地震から学ぶ今後の周産期ネットワークのあり方について

① 東日本大震災における妊産婦の受け入れ時のトリアージ

~竹田総合病院の取り組み~

② 熊本市立市民病院における発災時の助産師ネットワークについて

③ 熊本地震における熊本周産期医療情報ネットワークを活用した支援の実際について

(5) 地区別グループ討議

「災害時にも活用できる助産師のネットワーク構築について」

(6) 委員長まとめ

〈看護師職能委員長会 I 病院領域〉

13:00~16:00 (C会議室)

議 題

(1) 平成28年度看護師職能委員会 I 病院領域の活動方針について

(2) 関連事項報告「看護業務基準(2016年版)」

(3) 地区別グループ討議

「看護師長が役割を発揮するために必要な支援・教育と県内の取り組み状況について」

1) 趣旨説明

2) グループ討議・発表

〈看護師職能委員長会 II

介護・福祉関係施設・在宅等領域〉

11:30~16:00 (サファイヤルーム II)

議 題

(1) 平成28年度重点政策・重点事業について

(2) 平成28年度活動方針について

(3) 関連事業報告

(4) 「今後の介護医療病床のあり方について」について 齋藤委員長

(5) 地区別グループ討議

「訪問看護・特養・老健等の介護施設においてリーダーシップとマネジメント スキルを発揮できる看護管理者の確保策の検討」について

(6) 発表・まとめ

## 2 平成28年度第2回全国職能委員長会

日 時 平成29年3月3日(金) 10:00~16:00

場 所 TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

全体会 10:00~12:00(大ホール)

報告事項

- (1) 平成28年度重点政策・重点事業報告および平成28年度重点政策・重点事業計画について
- (2) 新会員情報管理体制について

### 〈保健師職能委員長会〉

13:00~16:00(バンケットA)

議 題

- (1) 平成28年度保健師職能委員会活動報告(質疑応答含む)
- (2) 平成28年度保健師関連事業報告、平成29年度重点政策・重点事業(保健師関連)
- (3) 講演 「地域医療計画の策定・推進と保健師への期待」
- (4) 事例発表・グループディスカッション  
「地域医療計画の策定・推進をよりよいものとするために保健師職能委員長として、誰にどう発信していくか」

### 〈助産師職能委員長会〉

13:00~16:00(バンケットB)

議 題

- (1) 平成28年度重点政策・重点事業(助産関連)および助産師職能委員会活動方針について
- (2) 災害時における周産期医療ネットワーク体制構築に関する各地区の活動報告
  - ① 災害時の周産期医療ネットワーク体制の現状と各地区の活動報告
  - ② 小児・周産期リエゾンの活動と助産師に求められる役割
- (3) 2016年度第2回CLoCMiPレベルⅢ認証制度の評価と更新要件(案)について
- (4) 助産師が担うウイメンズヘルスケア能力について  
～「分娩取扱施設におけるウイメンズヘルスケアと助産ケア提供状況等に関する実態調査」結果より～

- (5) NICU/GCUを退院する児と家族を支援する教育担当及び指導者の育成研修(案)について
- (6) 平成29年度重点政策・重点事業(助産関連)および助産師職能委員会活動方針について

### 〈看護師職能委員長会Ⅰ 病院領域〉

13:00~16:00(バンケットルーム9A)

議 題

平成28年度看護師職能委員長会Ⅰ病院領域活動報告  
平成29年度看護師職能委員長会Ⅰ病院領域の活動方針について

報 告

「都道府県看護協会 看護師職能委員会Ⅰ病院領域の活動」

情報提供

「看護師が生き生きと役割を發揮していくために必要な支援や教育について」

グループ討議

「看護師長への支援・教育に関する議題について」

### 〈看護師職能委員長会Ⅱ

介護・福祉関係施設・在宅等領域〉

13:00~16:00(バンケットホール9C)

議 題

- (1) 特別委員会報告  
「訪問看護・介護施設における看護管理者育成策に関する検討委員会」
- (2) 関連事業報告  
介護保険法改正の概要について
- (3) 平成28年度 看護師職能委員会Ⅱ活動報告  
訪問看護・高齢者ケア施設等の看護管理のあり方について
- (4) 平成29年度 重点政策・重点事業(在宅看護関連)
- (5) 平成29年度 看護師職能委員会Ⅱ活動方針
- (6) 平成28年度社会保険診療報酬改定の概要について
- (7) 地区別グループ討議(情報交換)  
看護師職能委員会Ⅱ及び都道府県看護協会看護師職能委員会Ⅱにおける組織強化について



## II 地区別職能委員長会（関東甲信越地区）

日 時 平成28年10月28日（金）9：00～15：00

場 所 軽井沢プリンスホテルウエスト

### （保健師職能委員長会）

- 1 職能委員会報告
- 2 日本看護協会保健師関連事業報告
  - ・地域包括ケアシステムの構築と推進「看護がつなぐ地域包括ケアの推進」
  - ・高齢者、認知症者を対象にした県協会地区支部等の単位における看護職連携構築事業
  - ・子ども子育て世代包括ケア推進のためのモデル事業
- 3 保健師のキャリア形成推進  
保健師活動評価基準や評価方法（試案）の作成  
市町村統括保健師の人材育成
- 4 地域における重症化予防対策「データヘルス計画活用推進事業」
  - ・データヘルス計画活用推進事業パイロットスタディーの実施
  - ・保健師向けプレゼンテーションスキル向上のためのハンドブックの作成

意見交換・情報交換

#### 【活動状況調査票および別添集計表】

- 1 平成28年度保健師職能委員会の活動計画について
- 2 統括保健師の配置推進について
  - ・市町村の統括保健師の配置は進んでいる?!  
共有しよう!?
  - 統括保健師配置のメリットはどんなこと?
  - ・自治体や企業等で統括保健師が役割・機能を発揮している事例を共有しよう!  
統括保健師同士の連携について
- 3 保健師のキャリアラダー・キャリアパスの活用について
- 4 地域包括ケアシステムの構築・推進について
  - ・高齢者・子ども子育て世代等の地域包括ケアを推進する体制は?  
どう連携している?
  - ・子ども子育て世代の包括ケアに取り組んでいる自治体の活動を共有しよう!
- 5 地域医療構想の策定・推進について

- 6 保健師のネットワーク強化に関する取り組み

- ・新入会や入会継続に関してどんなことに取り組んでいる?効果的な活動とは?
- ・新会員情報システム「ナースシップ」導入に伴う取り組みについて
- ・会員間のネットワークを強化するためにどんなことに取り組んでいる?  
どのような成果（反応）があったのか?!

### （助産師職能委員長会）

報告事項

#### (1) 助産師職能委員会について

- 1 平成28年度助産師職能委員会のあり方と地区内連携について
- 2 平成28年度助産関連事業4～8月の進捗状況（重点政策・重点事業）
- 3 平成28年度第1回全国助産師職能委員長会報告

#### (2) 本会事業関連報告について

- 1 「平成28年度分娩取扱い施設におけるウイメンズヘルスケアと助産ケア提供体制等に関する実態調査」～中間報告～
- 2 2016年度（第2回）CLoCMiPレベルⅢ認定申請者数 速報

#### (3) 平成28年度都道府県看護協会助産師職能委員会活動状況報告調査結果について

- ① CLoCMiP関連
- ② 地域母子保健の取り組みについて
- ③ 災害時の体制について

#### (4) グループ討議

災害時における周産期医療ネットワーク体制の現状と各地区の活動指針

- ① 災害時の母子支援のための助産師ネットワーク体制の現状について
- ② 災害時の母子支援のための助産師のネットワーク構築に向けた活動方針について

(看護師職能委員長会Ⅰ 病院領域)

報告事項

- (1) 職能委員会報告

協議事項

- (1) 変化する医療提供体制に応じた看護師長の担うべき役割および必要な支援や教育について
- (2) 外来の看護職による在宅医療支援の取り組みの広がりに向けた課題について

その他

- (1) 都道府県看護協会看護師職能委員会Ⅰ病院領域の活動について
- (2) 「特定行為に係る看護師の研修制度」の活動について

(看護師職能委員長会Ⅱ

介護・福祉関係施設・在宅等領域)

報告事項

- 1 職能委員会Ⅱ報告(4~8月活動報告)
- 2 関連事業報告
  - ① 特別委員会  
「訪問看護・介護施設における看護管理者育成施策に関する検討委員会」
  - ② ①における看護管理者確保・育成ワーキング  
「訪問看護における看護管理者確保・育成ワーキンググループ」
  - ③ ①におけるワーキング  
「介護施設における看護管理者確保・育成ワーキンググループ」

情報提供

- 1 次回介護保険制度改正の論点
- 2 介護施設等における事故に伴う訴訟のリスク  
日本看護協会常任理事 齋藤 訓子

グループ討議

- 1 平成28年度都道府県看護協会  
看護師職能委員会Ⅱ委員会活動に関する情報交換と課題整理
- 2 看護師職能Ⅱ領域における組織力強化に向けた具体策について

# 常任委員会及び推薦委員会報告

## 教 育 委 員 会

委員長 増渕 美恵子

### I 活動のまとめ

諮問事項	<p>少子超高齢社会を見据えた生涯教育の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質の高い看護を提供するための人材育成</li> <li>・会員にとって魅力ある研修の検討</li> <li>・千葉県看護研究学会について</li> </ul>
現状と課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 昨年度、学習段階に合わせた教育研修プログラムを提案したが、平成28年6月頃に日本看護協会よりクリニカルラダーが提示されることから、それに伴い学習段階が5段階と変更されることとなった。新クリニカルラダー公表後、内容の摺りあわせを行い、次年度実施に向け検討する必要がある。</li> <li>2. 教育部の依頼内容として、今年度は「教育機関に準じた研修環境の整備」が事業目標で掲げられており、現在の研修会の評価方法とともに研修内容の質を担保した定員の考え方の検討が要望された。</li> <li>3. 施設代表者会議において、准看護師の雇用が多い地域から課題が提示された。施設内の教育には限界があることから、協会内の准看護師に対する教育のあり方を検討していく。</li> <li>4. 教育委員会のメンバーが研究学会実行委員会に出席する方法は、平成26年度から行われているが、教育委員会がどのような役割を担うか、また下部組織となる位置付けの妥当性が不明確となっているため、検討が必要である。</li> </ol>
検討内容	<p>〔検討内容・過程〕 〔委員会開催状況：5回開催（別紙に詳細を記載）〕</p>
検討結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習段階については、従来のキャリアラダーの学習段階（4段階Ⅰ～Ⅳ）に新しい5つのクリニカルラダーで習熟段階（5段階Ⅰ～Ⅴ）を組み入れる構成を考える。旧学習段階Ⅱ「所属する看護職場で、日常的に必要とされる看護実践は、ほぼ単独で実施できる。」は、新レベルⅡ（標準的な看護計画に基づき、自立して看護を実践する）・Ⅲ（ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する）に該当すると読み替える案を教育委員会としては提案した。</li> <li>2. 定員に関しては、医療報酬改定に伴う研修等の要件が追加されるため、その点の柔軟性を持つ必要がある。学習ニーズを反映する場合、応募率95%で研修内容と継続性を検討する視点が教育部より提案された。</li> <li>3. 准看護師に対する教育研修に関しては、研修内容を准看護師と看護師に区分する必要はなく、むしろ地域差を念頭に、研修方法を検討する。例えば、協会が講師を紹介したり、或いは出前研修や短時間の研修等の提案を行う。また、教育ニーズとして、接遇、看護倫理、認知症に関する内容があった。</li> </ol>
今後の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 千葉県における生涯研修における学習段階別研修に関しては、教育部より平成30年度教育研修プログラム提案時に「周知方法」「周知内容」について確認する。</li> <li>2. 教育委員会と研究学会実行委員会との位置づけに関しては、千葉県看護協会の指示に従い運営に関与する。</li> </ol>

### II 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成28年 7月21日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成28年度 教育委員会諮問事項について</li> <li>2. 現状と課題について</li> <li>3. 平成28年度 教育委員会年間事業計画について</li> <li>4. 平成28年度 第35回千葉県看護研究学会について</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員長：増渕委員、副委員長：大西委員、書記：丸茂委員の会運営のメンバーを選出した。</li> <li>2. 3. 寺口常任理事より、28年度教育委員会諮問事項が伝えられた。現状と課題を論議し、会開催の予定を作成した。</li> <li>4. 看護研究学会実行委員会には、前年度に引き続き、増渕委員長が看護研究学会実行委員を兼務することとなった。平成28年度 第35回千葉県看護研究学会は、平成29年2月24日アパホテル&amp;リゾートで開催予定である。</li> </ol>

回数	開催月日	議題	内容
第2回	平成28年 8月18日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 都道府県看護協会における継続教育のプログラム開発～「継続教育の基準ver.2」活用のためのガイドの解説～の学習会</li> <li>2. 平成28年度都道府県看護協会教育担当者会議（8月10日開催）の報告</li> <li>3. 新しい学習段階の検討</li> <li>4. 千葉県看護研究学会実行委員会（8月1日開催）の報告</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1.に関しては、eラーニングを使用した教育部との合同学習会を実施した。提示された内容の中で、教育委員会の役割が、千葉県看護協会の定款に記載されていると異なっており、教育委員会では定款に沿った活動を実施することとなった。</li> <li>2. クリニカルラダーに関しては、開発経緯と今後の方向性、「看護師のクリニカルラダー」の位置付け、学習段階5段階とし、レベルⅠには新人とその施設で、初めて勤務する方を含む、平成14年度発表ラダーとの違いについて説明があった。また、ナースシップが稼働し、今後は会員各自が自らの研修等管理できるようマイページとなる「キャリアナース」に研修履歴が確認できるシステムを検討している。研修受講履歴の閲覧開始は2018年4月が目安であり、「自己責任」がさらに強化される。</li> <li>3. 学習段階については、次回検討となる。</li> <li>4. 千葉県看護研究学会実行委員会の委員長 渡辺尚子氏、副委員長 鈴木のり子氏となった。学会テーマは、第33回、34回と同じ。特別講演の対象を中堅層と考え「キャリアを積む」をテーマに濱田安岐子氏に交渉する。プログラムは、前年度と同様進行の予定である。ミニレクチャーは、看護研究を実践に活かすというテーマで島田先生（順天堂大学）、看護研究支援が、市原委員（千葉科学大学）と野崎先生（千葉大学）に依頼する。演題評価は、査読を大学教員への依頼を検討する。現在、千葉県看護研究学会規程第2章（目的）「臨床における看護活動」となっているが、広く臨床以外の看護活動の取り組みを発表するため、協会は改定を検討している。</li> </ol>
第3回	平成28年 10月13日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新しい学習段階の検討</li> <li>2. 学習段階周知の方法について</li> <li>3. プログラムに関する提言（准看護師教育、定員に関する考え方）</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 従来のキャリアラダーの学習段階（4段階Ⅰ～Ⅳ）に新しい5つのクリニカルラダーで習熟段階（5段階Ⅰ～Ⅴ）を組み入れる構成とする。（旧学習段階Ⅱは新レベルⅡ・Ⅲに該当すると読み替える案を提案する。）</li> <li>2. 看護管理者・教育担当者・参加者等、周知機会を設ける。会員全般に対しては、看護ちばやホームページに掲載し、JNAのクリニカルラダーレベルと千葉県看護協会の研修対象者表記のレベルが同じという認識を持っていただく必要がある。毎年2月頃、看護管理者を対象に千葉県主催で研修会を実施しており、その場を周知に活用できるよう、行政に働きかける。教育担当者に対しては、新人研修に関する「新人看護職員研修責任者・教育担当者研修会」を活用する。その他、研修会の毎にアナウンスを行なう。また、質問等あれば都度、当委員会でも検討する。</li> <li>3. 准看護師に対する教育研修に関しては、看護師職能Ⅰとしてどう考えているのか職能と確認後、再度検討する。また、定員に関しては、医療報酬改定に伴う研修等の要件が追加されるため、その点の柔軟性を持つ必要があるが、さらに具体的なプログラムで検討する必要がある。</li> </ol>

回数	開催月日	議 題	内 容
第3回	平成28年 10月13日	4. 千葉県看護研究学会実行委員会 (8月1日開催)の報告。	4. 千葉県看護研究学会実行委員会の報告では、スケジュール通りに進み、ポスター作成を行っている。また、演題申し込みは、現在48題となっている。
第4回	平成28年 12月1日	1. 1.平成29年度研修プログラムの検討  2. 研修プログラムに関する提言(准看護師教育、定員に関する考え方)  3. 学習段階周知の方法について  4. 千葉県看護研究学会実行委員会 (11月16日開催)の報告	1. 教育部より応募率、達成度、収支等を重点に9月から中間評価した結果を提示された。全60コース+県委託研修で平成28年度より多い設定であった。教育部より、応募率95%未満の研修に関しては、次年度再検討する報告があった。また学習段階に沿った研修計画については、日本看護協会が次々年度以降の導入となったことから、千葉県の生涯研修計画も同様とする方針が教育部より報告があった。 2. 限定領域(例:手術室)では定員数によって応募率95%以上の達成は困難であり、集客のためには隔年開催の検討等もあり得る。また、領域Ⅱは集まりづらい。開催曜日、時間帯、定員数等を検討する必要がある。准看護師教育に関しては、地区毎の准看護師の雇用に差があるため、地域の意見を確認する方向となった。 3. 教育部で実施が決まった時点で教育部と意見交換をすることになった。 4. 千葉県看護研究学会実行委員会は、順調に進捗しており、現在48演題(査読は大学教員)の応募がある。
第5回	平成28年 1月19日	1. 平成29年度研修プログラムの検討  2. 千葉県看護研究学会実行委員会 (1月19日開催)の報告、討議 (位置づけ)	1. 生涯教育61コース(資格修得教育11コース、ステップアップ22コース、看護実践28コース)、このうち千葉県委託事業9コースが予定されている。また、日本看護協会のラダーの変更に伴う対応として、「平成30年度から5段階のものに移行していく」ことに連動することが確認された。 2. 現在、315名の参加応募状況である。研究の倫理性の関しては、千葉県内には、倫理審査委員会の独自開催が難しい中小規模病院が多いという現状があり、そのため、千葉県看護協会が「倫理審査委員会」に該当する機能を持つことを含め、今後の課題として捉えていく必要がある。また、看護研究学会と教育委員会の位置付けについては、組織構造、役割分担を含めて、理事会での再検討を要望したい。(教育委員会と看護研究学会実行委員会に出席する必要があるため、物理的に担当者の負担が過重である。)
第6回	平成29年 3月15日	1. 准看護師教育内容の検討  2. 千葉県看護研究学会についての報告	1. 本件に関しては、研修内容を准看護師と看護師に区分する必要はなく、むしろ地域差を念頭に、研修方法を検討する。長夷(准看護師比率25%)、君津(同10%)、利根(同7.8%)、安房(同7.8%)地区には、協会が講師を紹介したり、或いは出前研修や短時間で実施する研修企画等が提案された。また、教育ニーズとしては、接遇、看護倫理、認知症に関する内容が提示されていた。 2. 参加総数442名であった。平日開催では、共同研究者の参加が限られるので、曜日の検討を行うと参加者増加となるとの意見があった。

# 労働環境改善委員会

委員長 伊藤 恵美

## I 活動のまとめ

<p>諮問事項</p>	<p>働き続けられる職場環境づくりを推進するための戦略          ・潜在看護職等の再就業支援          ・ワーク・ライフ・バランスの推進</p>
<p>現状と課題</p>	<p>・未就業者をなくすための取り組み          離職の届出制度・合同就職説明会・ナースセンターの登録、ハローワーク、ナースセンターでの相談・技術支援          ・再就業懇親会          ・ナースセンターへの登録者と登録施設の条件へとマッチングできる取り組み          求人施設が少ないため登録施設を増やす取り組み施設の情報が少ないため、病院訪問し、情報収集を行う。          受け入れ施設の受け入れ方を整備していく事で離職を防ぐ          ・ワーク・ライフ・バランスの取り組み施設を増やすための教育</p>
<p>検討内容</p>	<p>〔検討内容・過程〕          潜在看護師の再就業支援について          1. 届出制度についての広報を千葉県民だよりに年2回は記載して頂けるよう県へ働きかけていく          2. 潜在看護師の再就業支援についてはアドバイザーの方が3名活動されているのでおまかせしたい。次年度は委員会への参加を求める。          3. 県の管理者研修で再就業支援アドバイザーの活動報告や再就業支援で就業に結びついた看護師の体験等が聞ける研修を行い、受け入れ施設の届出増、再就業者の受け入れ態勢整備につなげる。          4. 潜在看護師の育成に関する補助金の新設について県へ要望する。          ワークライフのバランスの推進          [働きやすい職場にするためのQ&amp;A] 冊子を作成し、看護管理者に配布、活用してもらう          ・冊子内容の検討（冊子B6 2色で作成）          1. サービス残業          2. 休日・休暇          3. 多様な勤務形態          4. 新人が退職につながっている困ったこと事例          5. 看護教員が願っていること          6. 労働環境改善の助成金・補助金等の制度          7. ハラスメント相談と傾向・対策          8. 宿日直や管理当直を適正に行うために 等</p>
<p>検討結果</p>	<p>・潜在看護師の就業支援は再就業支援アドバイザーの方へお願いする          ・看護管理者（病棟師長等）がすぐ手に取って活用できる冊子「働きやすい職場にするためのQ&amp;A」を作成する          ・ワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる施設の良い事例を載せるか検討したが数が多いため、見送りとする。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>[働きやすい職場にするためのQ&amp;A]          冊子 次年度の完成に向け活動していく</p>

## II 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成28年 7月19日	1. 諮問事項に対する現状と課題を提示 2. 年間スケジュール作成 3. 潜在看護師等の再就業支援について	諮問事項を確認する 年間スケジュール6回日時決める 再就業支援について検討する
第2回	10月7日	1. 潜在看護師等の再就業支援について	・届出制度の現状把握再就業支援アドバイザーの活動を知る ・県民だよりの届出制度の広報がとても良い反響があったことを知る
第3回	11月10日	1. 潜在看護師等の再就業支援について	潜在看護師の再就業支援についてはアドバイザーに今年度はお願いし次年度委員会へ1名入っていただく
第4回	12月15日	1. 時間外勤務等に関する冊子についての検討 2. ワーク・ライフ・バランスの推進について潜在看護師等の再就業支援について	働く環境の改善を図る為冊子を作ることにする ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んだ良い事例も冊子へ入れてはどうか検討
第5回	平成29年 1月19日	1. 「働きやすい職場にするためのQ&A」冊子作成について 2. ワーク・ライフ・バランスの推進について	働きやすい職場にするためのQ&A 冊子の内容の検討
第6回	2月16日	1. 働きやすい職場にするためのQ&A冊子項目の検討 2. ワーク・ライフ・バランスを取り入れている病院の事例の検討 3. 平成28年度まとめ	・働きやすい職場にするための冊子項目、大きさ・配布する対象等の検討 ・ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んだ良い事例は冊子へは載せきれないのではという意見が出る ・平成28年度まとめ

# 医療安全委員会

委員長 小賀坂 好子

## I 活動のまとめ

諮問事項	安全な看護を提供するための組織的な推進戦略 ・組織で取り組む安全文化の醸成 ・チーム医療推進のための行政、関係機関、関係職種との連携
現状と課題	現状 医療安全推進対策の組織的な取り組みの推進 課題 1. チーム医療を推進するための多職種連携の強化 2. 組織で取り組む安全文化の醸成 3. 医療安全を推進するための行政及び関係機関等の連携
検討内容	〔検討内容・過程〕 委員会開催状況：6回開催（別紙に詳細を記載） 上記課題について多職種で構成されている委員により意見交換・情報共有を実施した。特に今年度は、昨年来の課題であった医療安全推進の組織体制づくりを強化する取り組みとして、新たに「医療安全担当者地区交流会」を実施することとした。これにより、「医療安全大会」と「医療安全担当者中央交流会」の事業に加え、地域における身近な連携強化を図る事業を展開した。
検討結果	医療安全対策として、より実践的で質の高いチーム医療を推進するために、多職種連携を強化する方策の検討を重ねてきた。今年度は初めて、安房・君津地区で「医療安全担当者地区交流会」を実施し、地区内での情報交換・連携強化を試みた研修を実施した。それぞれ沢山の参加者のもと『チームステップス』を体験し地区連携への交流が図られた。 また、「多職種連携で前進する医療安全～多職種連携の成功の鍵とは～」をテーマに「医療安全大会」を開催した。大会計画は、多職種が参加し具体的で実践的な知識の習得に繋がることを考慮し検討した。その結果、県内の医療関係者746名の参加を得て、盛会に終了する事が出来た。更に、昨年度施行された「医療安全事故調査制度」状況等について意見交換し、情報を共有した。
今後の課題	諮問事項の展開にむけ各事業の目的・方法を検討し、医療安全の推進を多職種連携で取り組む組織体制の強化を図る働きかけを更に検討する。

## II 委員会開催状況

回数	開催月日	議題	内容
第1回	平成28年 7月12日	1. 平成28年度医療安全委員会年間事業計画について  2. その他 ①医療安全大会運営について ②医療安全担当者交流会企画・運営について	I 平成28年度医療安全委員会年間事業計画について審議 1. 委員紹介・役員紹介・事務局紹介 2. 千葉県看護協会常任委員会設置についての共有 3. 委員長・副委員長・書記の互選 4. 今年度委員会開催日の決定（7月12日・9月13日・10月11日・12月13日・1月10日・2月14日計6回） 5. 本委員会諮問事項の答申を導く為、医療安全を取り巻く現状や課題について検討し、諮問事項の展開を図る。 6. 本委員会で取り組むべき事業について検討した。 諮問事項について検討を進めると共に、今年度実施する事業の企画運営を検討する。 また、医療事故調査制度の実施状況等について、情報共有を行い諮問事項検討の参考とする。 II 医療安全大会運営について検討 ・11月23日(日)幕張メッセ国際会議場で実施予定。講師依頼内容・パネルディスカッション等について検討した。現在進捗状況と合わせて計画内容の再確認を実施した。



回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成28年 7月12日	3. 医療事故調査制度について	<p>Ⅲ 医療安全担当者交流会について検討</p> <p>今年度事業計画についての共有を図り意見交換を実施した。医療安全担当者交流会の目的を踏まえ講師調整等について検討した。また、医療安全担当者地区交流会の実施について、より地域での施設の垣根を越えた連携強化に向け計画案を練った。</p>
第2回	平成28年 7月12日	<p>1. 医療安全大会運営について</p> <p>2. 医療安全担当者交流会企画・運営について</p> <p>①地区交流会企画・運営について</p> <p>②中央交流会企画・運営について</p> <p>3. 医療事故調査制度について</p>	<p>I 医療安全大会運営について検討</p> <p>大会運営についてテーマとの整合性と会場全体のレイアウト等について検討を進めた。また委員の役割分担について確認を実施した。</p> <p>II 医療安全交流会について検討</p> <p>1. 「地区交流会」企画・運営について亀田総合病院鈴木真先生の「医療安全推進のためのチームステップ研修を体験しよう」で安房・君津地区にて実施計画中。参加者募集方法について審議し、委員から担当を決定した。</p> <p>2. 「中央交流会」企画・運営については、講師の承認がなされた。また、グループワーク実施のテーマについて審議し課題の多い具体的な内容で進める事となった。ファシリテータ選出については委員3名に加え県内専従医療安全管理者4名を推薦する予定。</p> <p>Ⅲ 医療事故調査制度について</p> <p>協会ニュースの「医療事故調査制度」を資料に県内での状況について意見交換が実施された。医療安全体制の向上を目指し、医療安全大会が土台となって管理者が積極的に取組められる場となるよう行政も含めた連携が不可欠であることを共有した。</p>
第3回	平成28年 10月11日	<p>1. 医療安全大会運営について</p> <p>2. 医療安全担当者交流会について</p> <p>①地区交流会運営について</p> <p>②中央交流会企画・運営について</p> <p>3. 医療事故調査制度について</p>	<p>I 医療安全大会運営について検討</p> <p>特別講演・パネルディスカッションの資料の確認を実施。</p> <p>多職種連携にスポットがあたる有意義なディスカッションが展開できるよう工夫し、参加者の生の声が引き出せるような進行を検討した。</p> <p>II 医療安全交流会について検討</p> <p>1. 「地区担当者交流会」運営については、講師からの資料等会の進行について検討を展開した。担当の一部変更が発表されたが、最終確認として君津地区の参加者について前委員の協力もあり順調に進められている事を確認した。</p> <p>2. 「医療安全中央交流会」運営については、諮問事項に沿った「多職種連携の推進」をキーワードとしてグループワークを展開する。また、ファシリテータの最終確認を実施した。</p> <p>Ⅲ 医療事故調査制度について</p> <p>10月4日に開催された日本看護協会での専門者連絡会議での内容を常任理事から情報提供があった。周知徹底には課題が残る現状ではあるが、支援団体を活用しながら正しく制度を理解する重要性の検討を実施した。</p> <p>再度諮問事項を確認し安全で安心できる職場環境を構築するためにも医療安全大会や交流会を成功させようと思意統一を図った。</p>

回数	開催月日	議 題	内 容
第4回	平成28年 12月13日	<p>1. 医療安全大会結果および評価について</p> <p>2. 医療安全担当者交流会について ①地区交流会結果および評価について</p> <p>②中央交流会運営について</p> <p>3. 平成28年度委員会事業実績中間報告について</p> <p>4. 医療事故調査制度について</p>	<p>I 医療安全大会の結果および評価</p> <p>1. 内容について 医療安全推進に向けて「成功の鍵とは」と題しパネルディスカッションにおいて具体的な答えを導き出すことが出来た。</p> <p>2. 申込者及び参加者について 申込者717名、参加者630名となり前年度を100名近く超える申込や参加がみられたことから、本大会が周知され、「チーム医療を推進するための多職種連携の強化」や「組織で取り組む安全文化の醸成」に寄与する大会となっておりと考えている。</p> <p>II 医療安全担当者交流会について</p> <p>1. 地区交流会結果および評価 他職種を入れ、施設の壁を越えて多職種や地域の連携強化に繋がる交流会を初の試みで実施したが、多職種の参加もあり盛況に終了した。</p> <p>2. 中央交流会の企画・運営 事務局より報告を受け、企画について再確認した。</p> <p>III 平成28年度委員会事業実績中間報告について検討 活動実績について、ディスカッションし、中間報告をまとめた。</p> <p>IV 医療事故調査制度について 情報交換やディスカッションを行った。</p> <p>V その他 薬品管理について、厚労省の通達を元に意見交換を行った。</p>
第5回	平成29年 1月10日	<p>1. 医療安全担当者交流会について ①中央交流会運営について</p> <p>2. その他 ①平成29年度医療安全大会企画について</p> <p>3. 医療事故調査制度について</p>	<p>I 医療安全担当者交流会について</p> <p>1. 医療安全担当者中央交流会 事務局より報告を受け、企画について再確認した。</p> <p>II その他</p> <p>1. 平成29年度医療安全大会企画 日程や会場は、11/12（日）幕張メッセを仮予約されたことから、テーマや講師等についてディスカッションした。 また、他職種との連携、他団体との共催に向けて検討した。</p> <p>2. 医療事故調査制度について 日本医師会主催の研修会参加の報告について、次回へ持ち越した。</p>

回数	開催月日	議 題	内 容
第6回	平成29年 2月14日	1. 医療安全担当者交流会について ①中央交流会結果および評価について 2. 平成28年度委員会事業実績まとめ報告について 3. その他 ①平成29年度医療安全大会企画について ②平成29年度医療安全担当者交流会企画について	I 医療安全担当者交流会について 1. 医療安全担当者中央交流会の結果および評価記録についての講演は、現場で生かせる役立つ内容で講評だった。 グループワークについては、それぞれが希望した課題について、全グループ共活発な意見交換が行われていた。同じ悩みを持つ同じ立場の方との情報交換は、共感し合え、自施設で取り組む活動に参考となるとの意見があったことから、安全文化の醸成や医療安全を推進する上での連携に繋がったと考える。 II 平成28年度委員会事業実績まとめ報告について検討 活動実績まとめ報告を行う上で、ディスカッションし、まとめた。 また、今後も医療安全大会や担当者交流会(中央・地区)を通して、多職種連携で医療安全活動ができるようレベルアップしていきたいとの認識を統一した。 III その他 1. 平成29年度医療安全大会企画について テーマや講師について、ディスカッションし、方向性を見出していった。 2. 平成29年度医療安全担当者交流会について ①地区交流会 平成28年度よりスタートしたが、1地区2回シリーズにて開催とし、新規1回目2地区、2回目モデル実施の2地区で開催予定。内容は、チームステップスの基礎編(1回目)と実践編(2回目)で進めていく。 ②中央交流会 対象者や内容についてディスカッションし、現状の職位・職務混在のままか、専従に値する役割の方のみを対象とするか等、今後目的を再度検討しながら構築していくこととなった。 3. 医療事故調査制度について 医療事故調査制度に係る「支援団体統括者セミナー」の報告を受け、ディスカッションした。

# 広 報 委 員 会

委員長 伊藤 淳子

## I 活動のまとめ

諮 問 事 項	協会の広報戦略 ・会員、非会員に対する広報 ・県民に対する広報
現状と課題	1. 県民が協会事業に興味を持てる広報 2. 会員・非会員に向けての広報活動
検 討 内 容	〔検討内容・過程〕 〔委員会開催状況：6回開催〕 1. 県民が協会事業に興味を持てる広報について ・「看護ちば」の活用方法 2. 会員・非会員に向けての広報活動について ・若年層に向けた広報戦略として、SNSやホームページの活用 ・「看護ちば」についての協会のニーズ把握のため、施設に調査する
検 討 結 果	1. 県民が協会事業に興味を持てる広報 ・「看護ちば」の内容を県民向けにし、図書館・役所・銀行・看護学部・看護専門学校等に配布する 2. 会員・非会員に向けての広報活動について ・協会員に向けた「看護ちば」に関する調査(平成29年1月24日の施設等会員代表者会)実施 <配布数190、回答数152、回答率80%> ※ 参考資料 183頁 【回答施設背景】 協会会員数：100名以上28%、99名～50名19%、49名～10名33%、10名未満13%、無回答7% 【結果】 ① 読んでいるかー「施設会員ほぼ全員または半分位が読んでいる」72% ② 活用しているかー「活用している」32% ③ 興味のある内容ー「医療事故(シリーズ)」61%、「地区探訪(シリーズ)」37%、「教育研修」27%、「WLB(シリーズ)」26%、「協会の活動内容」22%等(複数回答) ④ 適切と思う配布数ー「会員1人に1部」44%、部署で1部22%、その他34%
今後の課題	・県民及び協会員に対する広報内容を検討する ・「看護ちば」等を利用して新人教育や専門看護師・認定看護師の活動紹介・医療安全成功実践報告等の内容に変更を提案する ・「看護ちば」の看護協会ホームページやSNSの利用等の検討および「看護ちば」の適切な部数の検討 ・企画編集会議と広報委員の合同開催を希望

## II 委員会開催状況

回数	開催月日	議題	内容
第1回	平成28年 7月25日	1. 前年度の課題の確認 2. 年間事業計画	1. 県民や会員・非会員に対する広報戦略 ①未来の看護職を増やすことを目的に学校に向 向く『18歳人口減少向けの看護職のPR』 ②県民への広報活動 2. Facebookやコマーシャルによるメディアを 活用する 3. 千葉県看護協会マスコットキャラクター作成
第2回	平成28年 9月9日	1. 若年層に向けた広報戦略 2. 県民や看護職に向けた広報活動につ いて	1. 「18歳人口減少向けの看護職PR」 学校訪問について 2. 県民や看護職に向けた広報活動SNSの活用 と協会事業案内パンフレットについて 3. 現状把握 ①広報場所や方法 ②看護協会ホームページアクセス数 『県民の皆様へ』『看護職を目指す皆様へ』 のアクセス数の確認
第3回	平成28年 10月17日	1. 広報誌「看護ちば」の内容検討 2. 県民向けの広報について	1. より手に取ってもらおう広報誌を目指して「看 護ちば」のリニューアル検討 会員に広報誌についてのアンケート調査検 討・協会オリジナルマスコット作成 2. 県民向けの広報について ①A4用紙3枚程度でタイムリーな健康に関する 内容にする
第4回	平成28年 12月5日	1. 県民に対する啓発活動について 2. 協会会員・非会員に対する啓発活 動	1. 「看護ちば」について 「看護ちば」を活用して看護協会や看護職の 活動内容や健康づくりについての内容を掲載 する。 2. ホームページ ホームページは、県民や会員・非会員のニー ズに合った情報を掲載する。アクセス数ア ップを目指し、知りたい情報を掲載する。 日本看護協会のホームページを見ることが 多いため、日本看護協会とのリンク内容を多 くする。 会員からキャッチコピーやマスコット募集 してホームページに上げる。
第5回	平成29年 1月16日	1. 「看護ちば」に対する協会員のニー ズ・現状調査	1. 広報誌「看護ちば」の見直し 平成29年1月24日の施設等代表者会におい て「看護ちば」の活用方法・工夫点・期待す る内容等の調査を作成した
第6回	平成29年 2月20日	1. 年間まとめ	「看護ちば」に関する調査結果分析 1. 「看護ちば」の配布について 配布部数を選択性にする。配布数が減るこ とに伴って削減された予算を他の広報活動 (web掲載や県民用広報等)にあてる。 「看護ちば」内容について ①新人教育に関する教育紹介 2. 広報活動についての企画 ①医療安全成功実践活動を報告する ②専門看護師や認定看護師の活動の紹介

# 会員増促進委員会

委員長 石井 久美子

## I 活動のまとめ

<p>諮問事項</p>	<p>会員を増やすための戦略          ・会員増の具体的方策          ・会員増を考慮した協会事業の進め方</p>
<p>現状と課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設等会員代表者会におけるアプローチ方法の検討</li> <li>2. 看護教育機関へのアプローチ（継続）</li> <li>3. 精神領域へのアプローチ（継続）</li> <li>4. 他の委員会との連携（継続）</li> <li>5. 入会率の低い職能への入会アプローチ（保健師・領域Ⅱ・准看護師・看護教員）</li> <li>6. 会員になる可能性のある子ども世代（中学生・高校生）へのアプローチ</li> </ol>
<p>検討内容</p>	<p>〔検討内容・過程〕          〔委員会開催状況：6回開催（別紙に詳細を記載）〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学生研究発表会でのブース企画の検討</li> <li>2. 看護師職能領域Ⅱ職能集会でのPR検討</li> <li>3. 未加入会員へのアプローチの検討</li> <li>4. 保健師職能集会でのPRの検討</li> <li>5. 子ども（中高生）世代へのアプローチの検討</li> <li>6. 准看護師交流会でのPRの検討</li> </ol>
<p>検討結果</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-①看護学生向けPRチラシの作成              ②看護学生研究発表会でのブース参加</li> <li>2-①新規入会案内のチラシ作成              ②10月7日領域Ⅱ交流会でのPR</li> <li>3-①診療所3000カ所に新規入会案内及びクラブオフのチラシと看護職賠償責任保険の案内を配布</li> <li>4. 11月26日 保健師職能集会でのPR              新規入会のチラシ・平成29年度入会申し込み書・キャリア              ナースチラシ・クラブオフ冊子</li> <li>5. 地区部会で地域の中高生の総合体験学習を積極的に受けてはどうかとの案があるが、地区部会で可能かを投げかける</li> <li>6. 1月14日 准看護師交流会でのPR</li> </ol>
<p>今後の課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地区部会へのアプローチ方法の検討（前年度から変更）</li> <li>2. 看護教育機関へのアプローチ（継続）</li> <li>3. 精神領域へのアプローチ（継続）</li> <li>4. 他の委員会との連携（継続）</li> <li>5. 入会率の低い職能への入会アプローチ（継続）              （保健師・領域Ⅱ・准看護師・看護教員）</li> <li>6. 会員になる可能性のある子ども世代（中学生・高校生）へのアプローチ（継続）</li> <li>7. 新卒者・2年目対象の研修の際に、継続入会の意識付とクラブオフのPR</li> <li>8. 地区部会研修での非会員への入会案内</li> <li>9. 県協会をPRできるものを検討（入会案内チラシとクラブオフの媒体、広報委員会のデータを参考にする）</li> </ol>

## II 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成28年 8月25日	1. 平成28年度年間計画の検討 2. 前年度からの継続課題についての検討	前年度までの委員会活動についての説明と今年度の活動方針・内容についての検討
第2回	平成28年 9月29日	1. 看護学生研究発表会でのブース企画の検討 2. 看護師職能領域Ⅱの職能集会でのPR検討 3. 未加入会員へのアプローチの検討	1. 看護学生向けチラシと新規入会向けのチラシ(原案)作成 2. 看護学生研究発表会・看護師領域Ⅱ職能集会参加について
第3回	平成28年 10月27日	1. 保健師職能集会でのPR検討 2. 看護学生研究発表会でのブース企画の検討 3. 子ども(中高生)世代へのアプローチ方法の検討	1. 看護学生向けチラシと新規入会向けのチラシ作成 2. 未加入施設(診療所)3000カ所に案内配布の報告 3. 職能領域Ⅱ交流会の活動報告 4. 子ども(中高生)世代へのアプローチ検討
第4回	平成28年 11月24日	1. 准看護師交流会でのPR検討 2. 未加入施設(診療所)への取り組み結果の確認 3. 平成28年度中間報告のまとめ	1. ブース参加の結果報告(参加者全員に入会案内は事前配布)3名に説明 2. 配布後新規入会が前月より62人増えたがチラシ配布の効果は不明 3. 中間報告を作成
第5回	平成28年 12月22日	1. 看護教員へのアプローチ方法の検討 2. 精神領域へのアプローチ方法の検討 3. 地域別入会率の格差についての検討	1. 学校は全て施設会員。個々の教員へのアプローチ検討 2. 地区部会からの働きかけの要請を検討 3. 地区別に検討したが、保健師と准看護師の入会が低く働きかけが必要
第6回	平成29年 1月26日	1. 入会状況の確認 2. 平成28年度のまとめと次年度の課題	1. 今年度の目標数達成(26000) 2. 実績報告書作成と次年度活動計画(案)検討

# 推 薦 委 員 会

委員長 浮ヶ谷 芳子

## I 活動のまとめ

諮問事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>平成29年度改選役員等の候補者の推薦</li> <li>平成30年度公益社団法人日本看護協会通常総会代議員・予備代議員候補者の推薦</li> </ol>
現状と課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>平成29年度に改選する役員8名 (副会長1名、保健師職能理事1名、 看護師職能理事〈領域Ⅰ〉1名、〈領域Ⅱ〉1名、理事3名、監事1名) 職能委員12名(保健師2名、助産師3名、看護師〈領域Ⅰ〉4名、看護師〈領域Ⅱ〉3名)、 推薦委員7名について推薦する。</li> <li>平成30年度公益社団法人日本看護協会総会代議員候補者について、平成28年12月31日現在の の会員数で27名と算出され地区部会の協力を得て、合計54名の代議員・予備代議員候補者の 推薦を行った。</li> </ol>
検討内容	<p>〔委員会開催状況〕 計4回 開催</p> <p>〔検討内容・過程〕</p> <p>諮問事項について年間計画を立案し、役割分担をし進めた。役割分担の進捗状況一覧表を作成し、メールで報告し合った。</p>
検討結果	<p>平成29年度の改選する役員8名、職能委員12名、推薦委員7名の推薦となった。2月の段階でほぼ人選することができた。しかし過程の中では、保健師、看護師〈領域Ⅱ〉の介護、福祉施設、在宅等人員の少ない施設からの推薦は、看護協会への入会者も少なく、人選に苦慮した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>平成29年度に改選する役員8名 (副会長1名、保健師職能理事1名、看護師職能理事〈領域Ⅰ〉1名、〈領域Ⅱ〉1名、 理事3名、監事1名) 職能委員12名(保健師2名、助産師3名、看護師〈領域Ⅰ〉4名、 看護師〈領域Ⅱ〉3名)、推薦委員7名について推薦した。</li> <li>平成28年度公益社団法人日本看護協会総会代議員候補者について、平成28年12月31日現在の の会員数で27名と算出された。地区部会の協力を得て、合計54名の代議員・予備代議員候補 者の推薦を行った。</li> </ol>
今後の課題	<p>会員数が少ない職能からの推薦者の選出に例年苦慮している。同領域から推薦委員を選出することによる人脈の活用や看護協会のバックアップは必須である。課題としては、会員数が少ない施設からは職場の業務が優先されるため、協会活動の理解はあっても、実際は引き受けにくい現状である。会員拡大の推進活動がさらに求められているといえる。</p>



## II 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成28年 10月27日	1 委員紹介 2 推薦委員の設置について 3 推薦委員会の諮問事項 4 委員長、副委員長、書記選任 5 平成28年度活動計画	1 自己紹介 2. 3 の説明を受ける。  4 委員長：浮ヶ谷、副会長：布施、書記：古川 5 H28年度の年間計画を立てた。 ・11月中に継続の意向確認をしてもらう。 ・代議員の推薦依頼は事務局がするのであがってきたものを確認する。
第2回	12月16日	1 意向確認の状況 2 人選と役割分担  3 次回日程	1 意向状況について報告をうける。 2 役割分担を決め、次回までに人選がどうなったか報告する。
第3回	平成29年 1月27日	1 人選の進捗状況報告  2 平成30年度代議員の推薦依頼状況確認 3 推薦委員候補者推薦 4 次回日程	1 人選する時は職種のバランスを考える。看護師職能理事〈領域Ⅰ〉で急に辞任する方の分1名追加で探すことになった。助産師、看護師〈領域Ⅱ〉、保健師が人選が難しい。これから5人（看護1、助産2、保健2）を決定する。推薦委員は今のところ、半数が決定しそうである。 2 依頼状況を確認した。 3 次回までに候補者を挙げてくる
第4回	2月15日	1 理事・監事・職能委員人選の進捗状況について 2 H30年度代議員の推薦依頼状況について 3 推薦委員候補者推薦の進捗状況について 4 その他(次回開催予定)	1 保健師職能委員は声をかけているが、異動の状況のみて確定する。助産師職能委員は東千葉メディカルから出すことになった。 2 各地区部会にお願いしている。 3 保健師のみ未定 4 第5回委員会は開催しない。未定の部分について個別で報告する。新しく候補者になる方へ、活動回数や内容を理解できるようにする。会員数が少ないと推薦が難しい。負担の少ない活動方法を工夫も必要か。

# 特別委員会報告

## ナースセンター運営委員会

委員長 星野 恵美子

本委員会は、「看護師等の人材確保の促進に関する法律」第15条の規定に基づいたナースセンター事業について協議することを目的として設置している。本年度は10名の委員で年1回開催した。

議事は前年度の事業実績と本年度の事業計画について、また平成28年度「離職看護師等の届出制度」の9月末までの届出者の状況について報告した。

運営委員からは、看護職の確保定着動向調査にある離職率について、特に新卒看護職の退職意向が起きた場合の支援（養成校への里帰りの日等）についての意見や具体的な支援方法等の意見交換がなされた。他に、潜在看護職はじめ離職看護職への再就業支援活動に従事している「就業相談推進アドバイザー」の具体的な活動である施設訪問の実際、ナースセンター内外における技術講習を含めた就業相談、離職届出者への面談・メール・往復はがきによる就業確認等の活動に対して、成果として就業者数増へ結びついたので期待したいとの求人側の意見が聞かれた。

また、求人側から、県内就業の確保のためには、退職者が退職する施設に再就業できるよう上手な辞め方ができるような環境づくりへの努力の提案がなされた。

## 認定看護管理制度教育課程運営委員会

委員長 石渡 祥子

本委員会は、千葉県看護協会認定看護管理者教育課程運営規程（以下運営規程）に基づき、教育課程の目的を達成するために企画運営及び修了審査に関する事項の審議機関として設置されている。

平成28年度の委員構成は、教育関係者4名、病院看護管理者2名、千葉県関係者1名、協会関係者3名の合計10名である。委員会開催は4回で、審議・報告事項は以下のとおりである。

### 【第1回 平成28年7月7日】

- 1 平成28年度第16回認定看護管理者教育課程セカンドレベル（以下セカンドレベル）の受講決定について
- 2 平成27年度第15回認定看護管理者教育課程セカンドレベルの看護管理実践報告会について
- 3 認定看護管理者教育課程運営委員会細則について

### 【第2回 平成28年9月1日】

- 1 平成28年度第35回認定看護管理者教育課程ファーストレベル（以下ファーストレベル）の修了認定について
- 2 平成28年度第16回セカンドレベルの進捗状況及び特別講演について
- 3 平成28年度第35回ファーストレベルのアンケート結果について

### 【第3回 平成29年1月6日】

- 1 平成28年度第16回セカンドレベルの修了認定について
- 2 平成29年度認定看護管理者教育課程の計画について
- 3 平成28年度第16回セカンドレベルのアンケート結果について

### 【第4回 平成29年4月20日】

- 1 平成29年度第36回ファーストレベルの受講決定について
- 2 平成29年度ファースト・セカンドレベルのカリキュラムについて
- 3 日本看護協会からのカリキュラム基準の追記について

### 【28年度実績】

- 1 第35回ファーストレベル開催（6/10～7/26）  
修了者86名（受講者全数）
- 2 第16回セカンドレベル開催（9/2～11/18）  
修了者33名（受講者全数）
- 3 第15回セカンドレベル修了者の看護管理実践報告会開催(平成28年10月25日)  
修了生34名中32名が発表
- 4 第16回セカンドレベル修了証明書授与式の特別講演を15回セカンドレベル修了者の公開講座として試行し、対象者34名中20名が受講した。

## 平成29年度 千葉県看護協会会長表彰

氏 名	施 設 名	氏 名	施 設 名
大 沼 かつ子	千葉大学医学部附属病院	小 島 智 子	社会福祉法人恩賜財団済生会 千葉県済生会習志野病院
町 田 朋 美	千葉大学医学部附属病院	鶴 崎 美優希	医療法人社団保健会 谷津保健病院
佐 藤 順 子	千葉大学医学部附属病院	花 岡 直 美	公益財団法人復光会 総武病院
東 田 かずえ	千葉大学医学部附属病院	齋 藤 一 美	公益財団法人復光会 総武病院
西 原 裕 子	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター	飯 田 美 紀	公益財団法人復光会 総武病院
平 野 こずえ	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター	花 見 正 和	公益財団法人復光会 総武病院
石 川 ひとみ	千葉市立青葉病院	桶 田 良 枝	社会医療法人社団千葉県勤労者医療協会 船橋二和病院
山 口 小百合	千葉市立青葉病院	本 間 恵	鎌ヶ谷市役所 健康増進課
村 里 智 代	千葉市立青葉病院	菅 谷 晶 子	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター国府台病院
横 山 保 江	千葉市立青葉病院	岩 崎 三智代	東京歯科大学市川総合病院
登 坂 香里奈	千葉市立青葉病院	入生田 順 子	東京歯科大学市川総合病院
木 村 由美子	千葉県救急医療センター	東別府 由加里	東京歯科大学市川総合病院
杉 内 喜世子	千葉県救急医療センター	高 山 貴 恵	東京歯科大学市川総合病院
山野内 裕 子	公益社団法人 千葉県看護協会	酒 匂 和 代	東京歯科大学市川総合病院
森 雅 枝	千葉県がんセンター	山 口 桂 子	市川健康福祉センター
高 木 一 枝	千葉県がんセンター	山 野 みゆき	国保松戸市立病院
山 田 みつぎ	千葉県がんセンター	岡 野 由美子	国保松戸市立病院
福 水 有美子	千葉県がんセンター	坪 井 英美子	国保松戸市立病院
川 村 利恵子	千葉県がんセンター	佐 藤 真由美	国保松戸市立病院
石 島 詩 保	千葉県がんセンター	尾 形 博 子	国保松戸市立病院
三 平 裕 美	千葉県がんセンター	笠 鳥 陽 子	国保松戸市立病院
星 野 素 子	千葉県がんセンター	吉 田 愛 子	国保松戸市立病院
園 部 和 子	千葉県がんセンター	後 藤 郁 子	国保松戸市立病院
中 川 か よ	千葉県がんセンター	戸 倉 三枝子	国保松戸市立病院
磯 貝 圭 子	千葉県がんセンター	富 田 由美子	国保松戸市立病院
丹 内 智 美	千葉県がんセンター	山 口 佐和子	国保松戸市立病院
香 取 よし子	独立行政法人国立病院機構 千葉東病院	伊 東 薫	国保松戸市立病院
阿 部 祐 子	医療法人社団誠馨会 千葉メディカルセンター	中 村 智 絵	国保松戸市立病院
長 嶋 亜希子	医療法人社団誠馨会 千葉メディカルセンター	加 藤 裕 美	国保松戸市立病院
村 田 長緒美	独立行政法人国立病院機構 下総精神医療センター	神宮寺 恵 美	国保松戸市立病院
野 老 浩 代	千葉県千葉リハビリテーションセンター	戸 張 英美子	国保松戸市立病院
伊 藤 直 美	千葉県千葉リハビリテーションセンター	岩 切 純 子	I M S グループ 医療法人財団明理会 新松戸中央総合病院
藤 代 文 江	千葉県千葉リハビリテーションセンター	新屋敷 房 代	松戸健康福祉センター
富 岡 久 美	千葉県千葉リハビリテーションセンター	猪 熊 薫	成田赤十字病院
小 口 明 子	千葉県千葉リハビリテーションセンター	菱 木 美和子	成田赤十字病院
亀 山 達 人	千葉県千葉リハビリテーションセンター	上 野 真知子	成田赤十字病院
高 金 快 枝	独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災看護専門学校	雨 宮 文 美	成田赤十字病院
三 宅 俊 子	市原市保健センター	高 橋 敏 枝	成田赤十字病院
小 関 寿 江	市原市保健センター	平 山 美 加	成田赤十字病院

氏名	施設名	氏名	施設名
宮本直子	成田赤十字病院	長澤千香	国保直営君津中央病院 大佐和分院
森田千秋	社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷佐倉市民病院	土屋礼江	国保直営君津中央病院 大佐和分院
楠原敦子	社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷佐倉市民病院	湯浅美智子	社会福祉法人太陽会 安房地域医療センター
干野真由美	独立行政法人国立病院機構 下志津病院	佐藤理子	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
生駒博子	海匠健康福祉センター	安田友恵	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
及川陽三代	千葉県立佐原病院	濱川久美子	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
石橋早苗	千葉県立佐原病院	岩澤れい子	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
礪野隆	千葉県立佐原病院	吉野悦子	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
山井恵美子	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	小坂重樹	鴨川市役所
渡邊之子	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	廣川昌美	船橋市立医療センター
山口知子	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	竹井利枝	船橋市立医療センター
小野寺ひろみ	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	君野寿美	船橋市立医療センター
椎名幸恵	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	香取みゆき	船橋市立医療センター
横田理恵	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	宮崎貴子	自動車事故対策機構 千葉療護センター
山崎美和	国保匝瑳市民病院	大柳茂子	順天堂大学医学部附属浦安病院
寺田幸子	国保小見川総合病院	神明範子	千葉市立海浜病院
亘裕子	国保小見川総合病院	鈴木順子	千葉市立海浜病院
藤原浩美	国保小見川総合病院	山下由美	千葉市立海浜病院
杉村隆子	国保小見川総合病院	岩崎ゆかり	特定医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院
山下里美	国保小見川総合病院	小石紀代美	特定医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院
年光早苗	東庄町国民健康保険 東庄病院	渡邊詔子	特定医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院
土屋玲子	東陽病院	塘朝子	特定医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院
井上純子	地方独立行政法人 さんむ医療センター	重城隆子	特定医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院
斉藤幸子	地方独立行政法人 さんむ医療センター	島倉富美子	特定医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院
小柴千鶴	地方独立行政法人 さんむ医療センター	山中祥子	医療法人三矢会 八街総合病院
鈴木真由美	大網白里市立 国保大網病院	稲田葉子	千葉県精神科医療センター
渡辺三規子	公立長生病院	伊東久美子	医療法人鳳生会 総合医療センター成田病院
嘉生みな子	公立長生病院	佐々木百合子	帝京大学ちば総合医療センター
河野裕子	公立長生病院	石井晃子	東京慈恵会医科大学附属柏病院
福岡幸子	公立長生病院	矢津田純子	医療法人社団誠馨会 総泉病院
安住由美	公立長生病院	小島英子	医療法人社団一心会 初富保健病院
北山美智子	公立長生病院	広瀬みゆき	医療法人社団一心会 初富保健病院
西村みゆき	公立長生病院	葛谷美弥子	医療法人社団一心会 初富保健病院
伊藤純子	いすみ医療センター	宮内典子	医療法人三省会 本多病院
榎本正美	国保直営総合病院 君津中央病院	小原桂	千葉県こども病院
小林由美子	国保直営総合病院 君津中央病院	大高明子	千葉県こども病院
野口理夏	国保直営総合病院 君津中央病院	一戸美紀	千葉県こども病院
青木美雪	君津中央病院附属看護学校	板倉悦子	千葉県こども病院
星純子	君津中央病院附属看護学校	崎原雅代	千葉県こども病院

氏名	施設名	氏名	施設名
清水 弘子	千葉県こども病院	原田 信子	訪問看護サポテン
天野 恵り	千葉県こども病院	山本 育美	医療法人社団吉祥会 加藤病院
原田 郁子	医療法人社団創進会 みつわ台総合病院	大塚 てる美	医療法人社団天宣会 北柏リハビリ総合病院
橋口 佐和子	医療法人社団創進会 みつわ台総合病院	高橋 美希	松戸神経内科訪問看護ステーション
松本 紀子	医療法人社団聖仁会 白井聖仁会病院	村岡 明美	千葉市青葉看護専門学校
飛田 朋子	医療法人社団聖仁会 白井聖仁会病院	榎本 晴子	千葉市青葉看護専門学校
氏原 葉子	船橋市立看護専門学校	濱石 ミチ子	医療法人社団誠高会 おおたかの森病院
長田 晴代	医療法人社団青嶺会 松戸整形外科病院	今関 元子	医療法人沖縄徳洲会 四街道徳洲会病院
佐藤 里菜	医療法人社団青嶺会 松戸整形外科病院	佐藤 まゆみ	千葉県立保健医療大学
奥村 道子	医療法人社団青嶺会 松戸整形外科病院	橋本 久代	医療法人明柳会 恩田第2病院
作田 美代子	医療法人社団慈優会 九十九里病院	有賀 紀江	医療法人社団誠馨会 新東京クリニック
伊東 正子	医療法人社団誠和会 長谷川病院	福井 みさ江	カンナ訪問看護ステーション
黒田 順子	東邦大学医療センター佐倉病院	長井 栄子	聖徳大学 看護学部 看護学科
有賀 いずみ	東邦大学医療センター佐倉病院	松田 ひろみ	市原市役所総務部人事課
鶴ヶ崎 和子	東邦大学医療センター佐倉病院	有田 孝子	個人会員
清藤 友里絵	東邦大学医療センター佐倉病院	青柳 雅恵	個人会員
梶野 加寿枝	東邦大学医療センター佐倉病院	伊藤 巳奈	個人会員
徳原 陽子	東邦大学医療センター佐倉病院	石井 市枝	個人会員
下山 明子	東邦大学医療センター佐倉病院	宇佐美 裕子	個人会員
若山 真弓	東邦大学医療センター佐倉病院	江尻 洋三	個人会員
徳留 彰子	東邦大学医療センター佐倉病院	加藤 富喜恵	個人会員
山中 靖子	東邦大学医療センター佐倉病院	坂下 貴子	個人会員
北村 達子	社会医療法人社団さつき会 袖ヶ浦さつき台病院	佐々木 政子	個人会員
田谷 美枝	社会医療法人社団健脳会 千葉脳神経外科病院	司 関和子	個人会員
豊田 増美	千葉防災特別介護施設 ケアプラザ四街道	末 永香	個人会員
前島 由起	医療法人社団翠明会 山王看護専門学校	瀬田 彩織	個人会員
寄本 洋子	医療法人社団一条会 一条会病院	武安 明美	個人会員
鈴木 いつみ	医療法人社団一条会 一条会病院	成田 美奈子	個人会員
古茶 トモ子	医療法人社団聖光会 聖光会病院	根本 幸子	個人会員
関口 洋美	日本医科大学千葉北総病院	長谷川 芳代	個人会員
佐久間 祥子	医療法人社団 慶勝会 なのはな訪問看護ステーション	松丸 玉枝	個人会員
宮崎 正代	国保旭中央病院 介護老人保健施設 シルバーケアセンター	丸山 真知子	個人会員
及川 理恵	千葉県立野田看護専門学校	三橋 美和子	個人会員
香取 春美	千葉県立野田看護専門学校	毛利 幸枝	個人会員
服部 真弓	千葉県循環器病センター	矢田 洋子	個人会員
関口 優子	医療法人社団碩成会 島田台病院		
窪田 妙子	松戸ニッセイエデンの園		
宮内 清美	地方独立行政法人東金九十九里 地域医療センター東千葉メディカルセンター		
溝口 美穂	地方独立行政法人東金九十九里 地域医療センター東千葉メディカルセンター		
			計230名

## 看護職員の表彰

### 1. 叙勲その他の国の表彰

平成28年度 秋の叙勲

瑞宝単光章 中村 初音 元 国保松戸市立病院副委員長兼看護局長

平成29年度 春の叙勲

瑞宝単光章 宮沼 順子 元 千葉市立青葉病院 看護部長

瑞宝単光章 園田 満子 元 東京歯科大学市川総合病院 副看護部長

### 2. 平成29年度千葉県看護功労者知事表彰

大木 信子 国保匝瑳市民病院  
大橋 富子 独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター  
小手田紀子 医療法人緑栄会 三愛記念病院  
中島恵美子 医療法人社団誠馨会 総泉病院  
須田 峰子 千葉市立海浜病院  
永江 咲子 船橋市立医療センター  
三枝多可子 松戸市立病院附属看護専門学校  
内田 菊江 成田赤十字病院  
八木美恵子 国保小見川総合病院  
茅森 芳美 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

### 3. 平成29年度日本看護協会会長表彰

杉本 龍子 元公益社団法人 千葉県看護協会常任理事  
大澤 豊子 帝京平成大学 健康医療スポーツ学部看護学科  
石井 市枝 君津健康福祉センター  
松丸 雪江 日本医科大学千葉北総病院  
村山 敦子 国保多古中央病院 看護部長

(以上、敬称略。現会員のみを記載。)

# 平成28年度 事業の実施状況

(公社) 千葉県看護協会

## 第4次看護職定着・確保推進計画の概要

### 現状と課題

- 超高齢社会が進展し生活習慣に起因した慢性疾患や認知症等の増加に伴い、医療や介護の需要が増大するが、対応する看護職は不足。
- 医療提供体制は「病院完結型」から「地域完結型」への移行が進展するが、受け皿となる体制が未整備。
- 健康寿命の延伸を図るためには、予防的視点を包含した看護の提供が必要。
- 看護師等学校養成所の入学定員数の拡大は見込まれるが、18歳人口が減少傾向。
- 看護職の役割が拡大する中、看護職が働き続けられる環境づくりの推進が必要。

### 目 標

質の高い医療・看護を提供するため  
看護職が働き続けられる環境づくりの推進

### 対 策

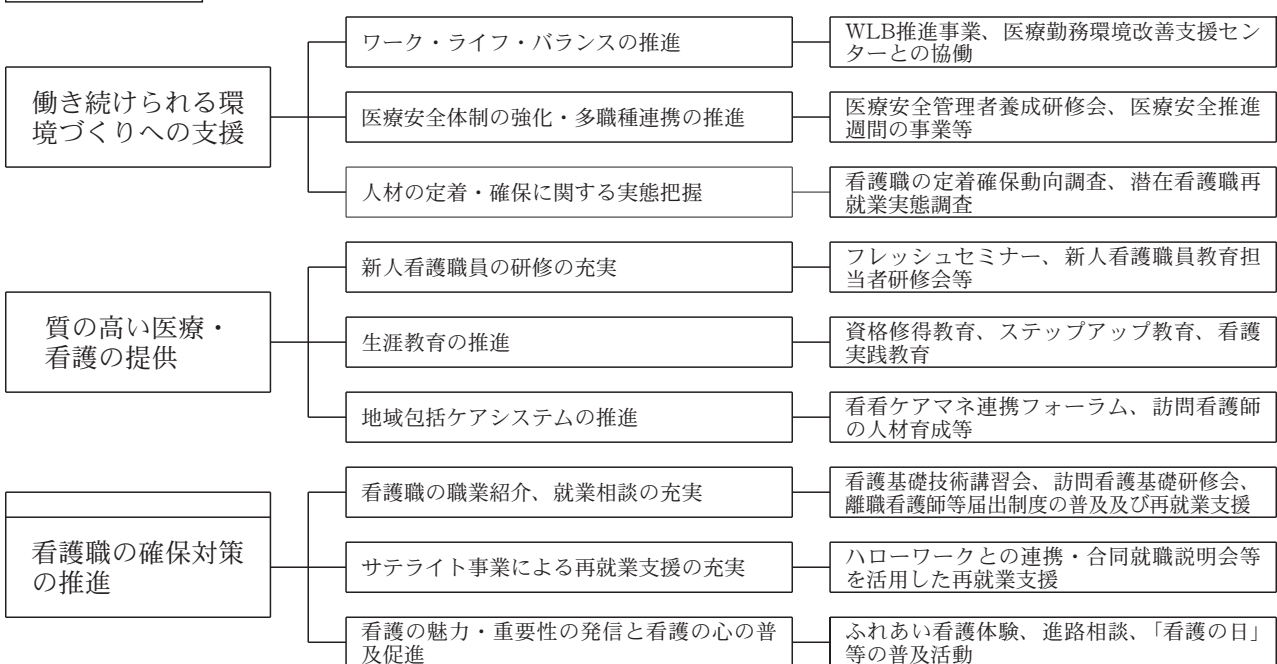
#### 1. 数値目標

	設 定 指 標	現状(直近値)	(平成32年度)
看護職が働き続けることのできる環境づくりへの支援	1. 病院勤務の常勤新卒看護職の離職率	7.8%	7.5%
	2. 病院勤務の全常勤看護職の離職率	11.7%	11.0%
	3. 専門家によるメンタルヘルス相談体制整備施設の割合	24.9%	80%以上
	4. 医療安全に関する部署の設置の割合(小規模病院等)	69.2%	75.7%
質の高い医療・看護の提供	5. 看護協会研修受講者の在籍施設数 (1) 病院・診療所施設数 (2) 介護・福祉・在宅等施設数	214施設 129施設	増加 増加
	6. 在宅医療を担う訪問看護師数	1,153人	増加
看護職の確保対策の推進	7. ふれあい看護体験者数	900人	1,034人
	8. 未就業看護職員の就業者数	149人	増加

#### 2. 施策の柱

(1) 看護職が働き続けられる環境づくりへの支援 (2) 質の高い医療・看護の提供 (3) 看護職の確保対策の推進

#### 3. 施策体系



#### 4. 計画の名称

第4次看護職定着・確保推進計画

#### 5. 計画期間

平成28年度～平成32年度(5年間)

#### 6. 推進組織

千葉県看護職定着確保対策協議会

# (公社) 千葉県看護協会 第4次看護職定着・確保推進計画

## 1 計画の策定に当たって

公益社団法人千葉県看護協会（以下、「当協会」という。）では、平成25年度からスタートした「第3次看護職定着・確保対策推進計画」において、「看護職が働き続けられる職場づくりへの支援」及び「質の高い医療看護の提供」、「看護職の確保対策の推進」を施策の柱に掲げ、平成27年度末までに達成を目指す数値目標を設定し、看護職の定着・確保に取り組んできた。

しかし、依然として厳しい看護職不足が続いており、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年には、最大で15,000人の看護職不足となることが見込まれ、今後はますます看護職不足は深刻化する。

国は、将来も社会保障制度を維持していくため、社会保障・税の一体改革を進めており、平成26年6月、「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」（以下、「医療介護総合確保推進法」という。）を制定し、また、医療・看護等に関わる法・制度の改正を行ったところである。

これに伴い、千葉県では、「地域医療構想」を盛り込んだ「千葉県保健医療計画」の改定に着手し、今年度末までに「地域医療ビジョン」の策定に向けて作業が進められている。

今後の医療・看護は、高度急性期から在宅医療・介護まで一連のサービスを提供するために、効率的かつ質の高い医療提供体制と、各地域において住まい・医療・介護・予防・生活支援が身近な地域で包括的に確保される地域包括ケアシステムの構築によって展開されることになる。

当協会では、本県における看護職不足の現状と国や県、公益社団法人日本看護協会（以下、「日本看護協会」という。）の動向等を踏まえ、また、「第3次看護職定着・確保対策推進計画」（以下、「第3次計画」という。）を検証した上で、第4次の看護職定着・確保推進計画を策定することとした。

なお、第4次の看護職定着・確保推進計画は、「千葉県保健医療計画」や「医療介護総合確保推進法に基づく千葉県計画」との整合性を図るものとする。

## 2 計画の名称

本計画の名称は、「公益社団法人千葉県看護協会 第4次看護職定着・確保推進計画」とする。

## 3 計画の期間

本計画は、平成28年4月1日から平成33年3月31日までの5年間を計画期間とし、法改正や千葉県保健医療計画の変更のある平成30年度に中間見直しを行うものとする。

## 4 推進組織

- (1) 計画に掲げる施策や各種事業は、当協会や病院等施設、行政、各種関係機関がそれぞれの役割分担の下で、各施設長や看護管理者等の理解を得て有機的な連携を図り、協働しながら推進するものとする。



(2) 県民に安心して安全な看護を提供するための基本方針や対策の検討、事業評価・分析を行うため、県医師会や病院、行政等の関係機関で構成する「千葉県看護職定着確保対策協議会」を設置する。

なお、協議会を円滑に運営するため下部組織として、当協会の役・職員で構成する推進部会を設ける。

## 第1章 今日の看護を取り巻く課題等

### 第1節 看護を取り巻く現状と課題

- 超高齢社会が進展し生活習慣に起因した慢性疾患や認知症等の増加に伴い、医療や介護の需要が増大するが、対応する看護職は不足。

高齢化率は平成27年26.2%（162万人）から平成37年には30.0%（180万人）と推計されている。それに伴い、生活習慣に起因する慢性疾患や認知症等が増加し、医療や介護の需要の増大が見込まれるため、「医療」にも「暮らし」にも精通している看護職の人材確保が求められている。

- 医療提供体制は「病院完結型」から「地域完結型」への移行が進展するが受け皿となる体制が未整備。

平成26年6月「医療介護総合確保推進法」が制定され、2025年を見据えた医療機関の機能分化、地域包括ケアが進展し、在院日数の短縮化の進行と相まって医療依存度の高い療養者が地域に移行してくる。そこで、今後は在宅医療を担う在宅療養支援診療所、24時間対応ができる訪問看護ステーション等受け皿となる地域医療体制の整備が求められている。

- 健康寿命の延伸を図るためには、予防的視点を包含した看護の提供が必要。

2013年の健康寿命は男が71.80歳、女が74.59歳である。健康寿命の延伸を図るために、保健師等による予防的視点を持った支援が不可欠である。

- 看護師等学校養成所の入学定員数の拡大は見込まれるが、18歳人口が減少傾向。

今後は、看護系大学の複数の新設により入学定員数の増加が見込まれる。

一方、18歳人口は平成29年を境に平成30年以降は1～2%、平成33年以降2～3%のペースで減少すると見込まれており、看護の道への普及啓発が更に求められる。

- 看護職の役割が拡大する中看護職が働き続けられる環境づくりの推進が必要。

平成27年10月から看護師の「特定行為」研修制度が始まり、看護職にはこれまで以上に専門性の高い看護の提供が求められている。そのためには、常にスキルを研鑽し、キャリアを重ねられるよう仕事と生活の調和を図り、働き続けられる職場環境づくりを推進することが求められる。

### 第2節 第3次看護職定着確保対策推進計画の検証（評価）

第3次計画の最終年度が平成27年度となることから、平成26年度までの2か年間（一部3か年）について、施策の柱別に数値目標及び実施した事業を評価した。（図表1）なお、検証に使用したのは、当協会が経年調査している「病院看護管理者に対する看護職の定着確保動向調査（以下、「動向調査」という。）」、「看護職の再就業者実態調査（以下、「再就業調査」という。）」の結果等をもとに評価した。

数値目標（図表1）の10項目のうち目標に達成したのは5項目、他の5項目は直近値より下回り、目標は達成できなかった。

## ○ 施策の柱ごとの評価

### (1) 働き続けられる職場づくりへの支援

- ・新卒常勤看護職の離職率は、直近値より1.0ポイント改善し目標を達成できたが、全常勤看護職は、直近値より0.6ポイント増加し目標を達成できなかった。

新卒看護職離職率の改善の要因は、①院内における卒後臨床研修制度の定着化、②新人看護職員研修責任者教育担当者研修会等の開催、③フレッシュセミナーの開催等により、新卒支援体制の整備が進んできたことによるものと考ええる。一方、常勤看護職の離職理由をみると1位が出産・育児・子どものため、2位が人間関係、3位が転居によるものであり、女性のライフイベントの影響等が働き続けられない要因の一つであると考えられる。

- ・ワーク・ライフ・バランスの推進強化における複数の多様な勤務形態導入対策に取り組む施設の割合は、直近値より26.7ポイント改善した。多様な勤務形態導入対策で多かったのは、「時差出勤・終業」(59.1%)、次いで「短時間正職員制度」(45.7%)、「期間限定労働時間短縮」(22.0%)の順であった。
- ・複数の超過勤務を減らす対応策に取り組む施設の割合は、目標値に対し0.5ポイント、直近値より10.3ポイント上昇し改善された。改善策の1位は「業務分担の見直し」(83.2%) 2位は「他職種との業務調整」(69.7%) 3位は「看護職員外の増員」(58.7%)であった。

#### — 総 括 —

看護職が働き続けられる勤務環境をつくるためには、基盤となる労働安全衛生、夜勤・交代制勤務の改善、人事制度・福利厚生制度等の利・活用の周知と多様な勤務形態の整備、復職支援制度等があげられる。

これらは、看護部だけの努力では限界があり院内全体で取り組むことにより改善できることが、当協会が推進するワーク・ライフ・バランスの取り組みから検証できている。

今後は「千葉県医療勤務環境改善支援センター」との連携により、院内全体での取り組みが進むよう支援したい。

- ・専門家によるメンタルヘルス相談体制は27.9%から24.9%へと減少した。これは各施設では、メンタルヘルス相談体制の必要性は認識されているものの、院内の相談体制に留まり、専門家による体制整備の必要性までを施設側が認識していないことや、専門家に気軽に相談に行けるという風土までには至っていないものと思慮される。最近の離職理由に、人間関係・健康上の理由が上位にあがってきており、今後も増加が懸念されることから、気軽に利用しやすく、プライバシーが保たれるメンタル相談体制について検討していく必要がある。
- ・医療安全管理者研修会の修了看護職が在籍している施設の割合は、目標値に達しなかったが、直近値の82.6%から平成27年度には89.9%と7.3ポイント増加している。さらに、同調査によると医療安全に関する部署の設置状況は、直近値は70.9%であったが平成27年度では0.7ポイント増の71.6%が設置されており、徐々に体制整備は進められてきている。

### (2) 質の高い医療・看護の提供

- ・当協会研修受講者の在籍施設数（病院のみ）は、直近値の227施設から192施設に減少し目標は達成できなかった。一方、計画目標に掲げていなかった介護・福祉関係施設・在宅等領域の受講施設は増えており、全体として研修受講者の在籍施設数は214施設となった。これらは、医療提供体制が病院完結型から地域完結型へと移行している状況を受け、当協会の研修企画が時代のニーズに対応した地域包括ケア関連の研修等を組み入れ、併せて研修全体の見直しから類似している研修の集約化を実施したことにより、研修数が減となったことによるものと考ええる。

### (3) 看護職の確保対策の推進

- ・看護学生の県内就業率は、直近値より7.6ポイント上回り目標を達成した。これは、県の保健師等修学資金貸付制度の対象枠の拡充や、実習指導者研修会の経年開催により各施設の実習体制の整備等が充実したことによるものとする。
- ・ふれあい看護体験者数は、直近値より1.8倍で目標値を達成した。その理由として、①開催時期を延長したこと、②高校生等が複数の医療施設での体験を希望し、施設側がそれを全面的に受け入れる努力をされたこと等の成果と考える。
- ・未就業看護職の就業率は、直近値より3.0ポイント低下し目標値に達しなかった。低下の要因として、再就業者の就職先の決め手として優先的に挙げている要件が、多様な勤務時間、通勤に便利な場所であり、それに見合った求人施設がなかったことによることと大きいと考えている。そのほか、看護領域・看護内容・業務内容をあげており、施設の看護の現状等、具体的な情報提供をしていくことで復職につながることを示唆された。今後は、平成27年度から開始された離職時看護職の届出制度の未就業者支援にも生かしていきたいと考える。

図表1 設定指標の達成状況

設定指標		直近値	H 27	数値目標	達成状況
働き続けられる職場づくりへの支援	1. 病院勤務の常勤新卒看護職の離職率	8.8%	7.8%	8.4%	達成
	2. 病院勤務の全常勤看護職の離職率	11.1%	11.7%	10.8%	未達
	3. ワーク・ライフ・バランスの推進強化				
	(1) 複数の多様な勤務形態導入対策に取り組む施設の割合	37.2%	63.9%	40.0%	達成
	(2) 複数の超過勤務を減らす対応策に取り組む施設の割合	80.2%	90.5%	90.0%	達成
	4. 専門家によるメンタルヘルス相談体制導入の施設の割合	27.9%	24.9%	30.0%	未達
	5. 医療安全管理者研修会修了看護職が在籍している施設の割合	82.6%	89.9%	90.0%	未達
質の高い医療・看護の提供	6. 看護協会研修受講者の在籍施設数	227施設	192施設	227施設以上	未達
看護職の確保対策の推進	7. 看護学生の県内就業率	60.1%	67.7%	61.0%	達成
	8. ふれあい看護体験者数	501人	900人	501人以上	達成
	9. 未就業看護職員の就業率	29.3%	26.3%	30.0%	未達

※達成状況欄は、未達成は「未達」と表示した

※指標項目1～6及び9は看護職の定着確保動向調査結果、7は県の調査、8は当協会の調査結果によるものである

## 第2章 計画の目標

### 第1節 目標

#### 「質の高い医療・看護を提供するため、看護職が働き続けられる環境づくりの推進」

私たち看護職の願いは、看護職の資質の向上を図り、医療の担い手として誇りを持ち安心して働き続けることができることである。

そして、地域のニーズに応える保健・医療・福祉活動を推進し、また、県民の健康な生活の実現に貢献することによって、さらに看護職として充実・成長できるものと考えている。

しかし、現実の医療現場における看護職は、夜勤を含む交代制勤務等、厳しい勤務環境下で、真摯に患者と向き合い、寄り添い、常に緊張感を持ち続けながら看護の提供を余儀なくされている。

当協会では、こうした厳しい医療の現場において、看護職がスキルアップを図り、自信と誇りを持って看護の専門性を発揮するためには、働き続けることができる職場環境づくりを推進することが重要であり、このことが看護職の定着確保を進めることとなり、ひいては県民にとって質の高い医療・看護の提供につながるものと考えている。

そこで、本計画における目標を「質の高い医療・看護を提供するため、看護職が働き続けられる環境づくりの推進」とし、看護職、個々のライフスタイルに応じて、仕事と生活の調和を図る「ワーク・ライフ・バランスの推進」など、目標の達成に向けて各種施策を積極的に展開する。

### 第2節 数値目標の設定

#### 1 目標の達成状況を評価するため、8項目の指標を設定した。

設定指標		直近値	H32年度末 目標値
看護職が働き続けることのできる環境づくりへの支援	1. 病院勤務の常勤新卒看護職の離職率	7.8%	7.5%
	2. 病院勤務の全常勤看護職の離職率	11.7%	11.0%
	3. 専門家によるメンタルヘルス相談体制整備施設の割合	24.9%	80%以上
	4. 医療安全に関する部署の設置の割合（小規模病院等）	69.2%	75.7%
質の高い医療・看護の提供	5. 研修受講者在籍全施設数		
	(1) 病院・診療所施設数	214施設	増加
	(2) 介護・福祉・在宅等施設数	129施設	増加
看護職の確保対策の推進	6. 在宅医療を担う訪問看護師数	1,153人	増加
	7. ふれあい看護体験者数	900人	1,034人
	8. 未就業看護職員の就業者数	149人	増加

※ 指標項目の直近値は、1・2・3・4は看護職の定着確保動向調査、6は業務従事者届、他は当協会の調査数値である

## 2 設定した数値目標の考え方

- (1) (2) 看護職が働き続けられる職場づくりの指標は離職率の低減である。病院勤務常勤看護職及び新卒看護職の離職率は、全国平均まで引き下げることを目指すこととした。
- (3) 専門家によるメンタルヘルス相談体制の整備は、第3次計画で目標に達していなかったこと、今後もメンタルに悩む看護職は減少する見込みは難しいことを考慮して引き続き指標とした。また施設内の相談体制よりも、専門家による相談体制が職場に気兼ねなく相談でき、相談効果も上がることを期待した。併せて、労働安全衛生法の一部改正により平成27年12月から50人以上の施設においてストレスチェックが義務化され、制度上でも整備が進んだことも考慮した。直近値は動向調査による平成27年の数値とし、目標値は「第12次労働災害防止計画」で設定されている値80%以上を目指すこととした。
- (4) 医療安全に関する部署の設置は、100床以上の大中規模の病院では設置が進んできているが、100床未満の小規模病院での設置は課題として残っているため、引き続き指標に掲げることとし、直近値より増加を目指すこととした。なお、平成27年10月から医療事故調査制度がスタートし、医療安全の確保はより一層厳しく問われることとなった。
- (5) 当協会の研修受講者の施設は、医療提供体制の流れや平成27年度に協会に看護領域Ⅱが新設されたことにより、介護・福祉関係施設・在宅等で働く看護職に特化した研修も計画した。これまで以上に医療提供体制のニーズに応じた高い資質が求められていることから2領域に分けて指標を設定した。直近値は、現行の実績値を置き、今後は現状値より増加を目指すこととした。
- (6) 「在宅医療を担う訪問看護師数の確保」は、平成26年業務従事者届数を直近値とし、医療の流れが在宅医療にシフト化が進む環境や新卒看護師育成プログラムによる訪問看護師養成支援の進展を勘案し、増加を目指すこととした。
- (7) ふれあい看護体験者数は、少子化の進行により18歳人口が減少してきている中、社会人を含め新たな看護の道を志す人材を確保する戦略を考えることとし、平成22年から26年までの経年参加者増加数の平均値に5年間を乗じて目標値とした。
- (8) 未就業看護職員の就業者数は、ハローワークとの連携や離職時看護師等届出制度等により、ナースセンターを介して就業した者の直近値より増加を目指すこととした。

## 第3章 目標達成に向けた具体的方策

### 第1節 施策の柱

計画の目標とする「質の高い医療・看護を提供するため、看護職が働き続けられる環境づくりの推進」に向けて取り組む施策の柱は、次の3項目とする。

- (1) 「働き続けられる環境づくりへの支援」
- (2) 「質の高い医療・看護の提供」
- (3) 「看護職の確保対策の推進」

### 第2節 施策の柱の具体的方策

#### 1 働き続けられる環境づくりへの支援

看護職が働き続けられるためには、出産や育児、介護、キャリアアップ等個々のライフスタイルに応じて働き方を選択できる多様な勤務形態の導入や、長時間勤務や夜勤の軽減等の勤務環境の改善、さらに、緊張感や業務の複雑さ等により生ずるストレスから心身の健康を守るための対策等、様々な対策を講ずる必要がある。また、看護職は最も患者に身近な存在であり、医療行為の最終的な実施者になることが多いことから、医療安全の確保も重要な対策である。万が一、事故が発生した場合には、個人の責任の追及ではなく、組織として発生原因の分

析や防止策の検討等、組織的な対応システムの構築が求められる。

こうした状況を踏まえ、当協会は、看護職の定着・確保対策の重点事業として、ワーク・ライフ・バランスの推進や医療安全管理対策等に取り組むことにより、看護職が働き続けることができる職場づくりを支援する。また、県が設置した「千葉県医療勤務環境改善支援センター」と協働し、県内の病院施設等における勤務環境改善の支援に取り組む。

#### 各種施策の推進

##### (1) ワーク・ライフ・バランスの推進

施設等における短時間正規雇用等の多様な勤務形態の導入や勤務環境の改善の取り組みを促進するため、ワーク・ライフ・バランスの考え方を普及し、取組み施設等へ支援する。

—実施・推進する事業—

- ワーク・ライフ・バランス推進事業
- 千葉県医療勤務環境改善支援センターとの協働

##### (2) 医療安全管理体制の強化、多職種連携の推進

医療の安全確保と質の向上を図るため、医療安全管理者の育成やスキルアップの支援を行う。特に、体制整備の充分ではない小規模病院等が認められることから情報の提供や人材育成等を含めた支援を強化する。

また、多職種連携による医療安全体制の強化を図る。

—実施・推進する事業—

- 医療安全管理者養成研修会の開催
- 医療安全推進週間における事業の推進
- 医療安全に関する相談支援・情報提供
- 医療安全担当者交流会の開催
- 医療事故制度に関わる団体として支援

##### (3) 人材の定着・確保に関する実態把握

新人看護職の現状や離職看護職の就業意向や病院における看護職の定着確保動向調査を実施し、事業に反映する。

—実施・推進する事業—

- 看護職の定着確保動向調査（看護管理者・未就業看護職・新人看護研修受講者）
- 潜在看護職の再就業実態調査

## 2 質の高い医療・看護の提供

新人看護職には、正確な知識と技術に基づいた質の高い実践能力を修得させるために、就業施設における計画的、系統的な教育・継続研修等の体制整備が不可欠である。また出産・育児等を経て職場復帰した看護職への復職支援体制も考慮する必要がある。さらに良質の医療・看護を提供するためには、個々の経験年数やキャリアに応じた研修を構築することが重要である。これらのことを踏まえ、当協会においては、生涯教育を「資格修得教育」、「ステップアップ教育」、「看護実践教育」の3つのカテゴリーに区分し研修を開催する。

#### 各種施策の推進

##### (1) 新人看護職員の研修の充実

県内に就業した新人看護職員のうち、自施設で十分な研修会が開催できない新人看護職員を対象とした研修や県内全施設の新人看護職員を対象とした研修交流会を開催する。また、各施設における新人看護職員研修の充実・強化を図るため、新人の教育指導に当たる担当者を対象として指導の知識・技術等の習得を目的とした研修会を開催する。

—実施・推進する事業—

- 新人看護職員研修の開催
- 新人助産師研修の開催
- フレッシュセミナーの開催(春・秋)
- 新人看護職員教育担当者研修の開催
- 実地指導者研修会の開催

(2) 生涯教育の推進

当協会は、職能団体の目的の一つである看護職の資質向上を図るために、専門職としての各個人のキャリアや専門領域に応じた生涯教育の機会を提供する。

—実施・推進する事業—

- 資格修得教育  
ファーストレベル、セカンドレベル、訪問看護師養成講習会等
- ステップアップ教育  
新人看護職員研修、フレッシュセミナー、災害看護、認知症看護等
- 看護実践教育  
エンド・オブ・ライフケア、最新の褥瘡予防とケア、地域包括ケアシステム等

(3) 地域包括ケアシステムの推進

平成26年6月に成立した「医療介護総合確保推進法」の柱の一つに地域包括ケアシステムの構築・推進が掲げられた。これは地域ごと(中学校区)に、医療・介護を一体的に提供する支援体制を構築し、病院完結型から地域完結型へ医療提供体制が移行することへの体制づくりでもある。

当協会も各地域で、開催される関係会議に参画し意見を述べるとともに訪問看護師の人材育成等在宅医療の充実に向け事業の実施、関係機関等への協力・支援をしていく。

—実施・推進する事業—

- 医療構想ビジョン策定会議等への参画
- 訪問看護の魅力を伝える講習会等の開催
- 看看ケアマネ連携フォーラムの開催
- 訪問看護師の人材育成
- 訪問看護ステーション指導者研修会の開催
- 訪問看護再就業支援事業の開催
- 地域包括ケアシステム研修会の開催

3 看護職の確保対策の推進

長年の看護職不足を解消させるためには、看護の道に進む高校生等を増やすことと県内就業率をアップすることである。そのためには、看護学校への入学を推進するためのふれあい看護体験者数を増やし、実習等で看護学生がこの職場で働きたいと思える看護実習体験をしてもらうことである。

また、千葉県ナースセンターは、無料職業紹介所としての機能を十分に発揮するとともにサテライト事業を展開し、資格を持ちながら長く職場を離れている潜在看護職を掘り起し再就業に向けた支援を積極的に行う必要がある。

加えて、平成27年10月から施行された看護職の離職時における届出制度を有効に活用して、潜在看護師等となることを未然に防止するとともに再就業に向けた相談・支援の充実を図る必要がある。

さらに、男性や社会人経験者の看護職への誘導、定年退職後も健康で就業意欲の高い看護職については、長

年培った技術や経験を活かすためのシステム構築について検討する必要がある。

#### 各種施策の推進

##### (1) ナースセンター事業の強化

###### ア 看護職の職業紹介、就業相談の充実

ナースセンターの周知を図るとともに登録を推奨し、登録された求職者や求人施設等に活用しやすい情報を提供する。また、求職者の就業相談の充実を図る。さらに、離職看護師等の届出制度を活用し潜在化の防止を図るとともに、再就業に向けた支援の充実を図る。

###### ―実施・推進する事業―

- 看護基礎技術講習会の開催
- 訪問看護基礎研修会の開催
- 看護職のセカンド・ステージシステムの検討
- 離職看護師等届出制度の普及及び再就業支援

###### イ サテライト事業による再就業支援の充実（潜在看護師等の掘起し）

ハローワークでの出張相談や地区部会と協働する合同就職説明会等、未就業看護職がお互いの悩みや再就業に向けて話し合う未就業看護師等再就業支援セミナーを開催する。

###### ―実施・推進する事業―

- ハローワークとの連携による再就業相談の強化
- 地区合同就職説明会等を活用した再就業支援

##### (2) 看護の魅力・重要性の発信と看護の心の普及促進

少子化により若者が減少する中で、多くの若者に看護の道が選択されるよう看護の魅力や重要性を広く発信するとともに、ふれあい看護体験や進路相談、看護の心を普及する事業を推進する。

###### ―実施・推進する事業―

- 「看護の日」「看護週間」事業の実施
- 地区部会による「まちの保健室」事業の開催
- ふれあい看護体験の実施
- 中学校や高校での出前授業の実施
- ナースセンターによる進路相談
- 看護の魅力発信に関わる広報戦略の推進



## 看護職員の資質向上に関する事項

### I 教育・研修等による看護の質の向上に関する事業

#### 1. 生涯教育

(1) 生涯教育の実施状況(平成28年度生涯教育研修参加状況表参照)

今年度、当初計画した研修は48コースであったが、千葉県委託事業研修3コース、新規研修を2コース追加し53コースとなった。

平成28年度診療報酬改定に伴う対応として「認知症ケア加算2」の施設基準に該当する適切な研修「認知症初心者研修」の研修回数を追加し、新規研修として「認知症高齢者の看護実践に必要な知識～インターネット研修～」をトピックス研修として開催した。

また、認定看護管理者教育課程セカンドレベル修了証明書授与式の特別講演を「認定看護管理者セカンドレベルフォローアップ研修」として公開講座とした。

また、アドバンス助産師育成支援に向けた「助産実践能力強化支援研修」を3コース開催し、クロックミツプレレベルⅢ認証制度に申請できる研修として位置づけた。

研修回数101回、研修総日数304日、受講者実数 7,408名であった。

教育計画の категория 別実施状況の内訳は 以下のとおりである。

① 資格認定教育	10コース	16回	143日	712名
・認定看護管理者制度教育課程	(内訳)			
ファーストレベル教育課程	1コース	1回	29日	86名
セカンドレベル教育課程	1コース	1回	39日	33名
・医療安全管理者養成研修	1コース	1回	7日	109名
・心肺蘇生法トレーニングコース (B L S)	1コース	4回	4日	230名
・心肺蘇生法トレーニングコース (A C L S)	1コース	3回	2日	37名
・心肺蘇生法トレーニングコース (P E A R S)	1コース	2回	1日	51名
・実習指導者講習会	1コース	1回	44日	66名
・保健師助産師看護師実習指導者講習会(特定分野)	1コース	1回	7日	24名
・喀痰吸引等指導者講習会	1コース	1回	2日	46名
・訪問看護師養成講習会	1コース	1回	3日	30名
② ステップアップ教育	23コース	58回	113日	4,169名
(内訳)				
・段階別研修(新人、2年目、中堅、管理者等)	12コース	46回	82日	3,110名
・領域別研修(感染、災害、がん、認知症等)	11コース	12回	31日	1,059名
・認知症初心者研修(再掲)	1コース	2回	6日	278名
③ 看護実践教育	20コース	27回	48日	2,527名
・地域包括ケアシステムの中の看護活動	1コース	1回	3日	120名
・エンドオブライフケア	1コース	2回	4日	114名
・助産実践能力強化支事業～CLoCMiPに活用できる研修～	3コース	1回	1日	108名
・認知症高齢者の看護実践に必要な知識(インターネット研修)	1コース	1回	2日	292名
④ 公開講座「認定看護管理者セカンドレベルフォローアップ研修」	1コース	1回	1日	20名
⑤ 今年度の千葉県委託事業研修(再掲)は4研修7コース実施。				

(2) まとめ

- ・定員に対する受講数は7,408名(90.3%)で、前年同期より(27年度7,549名、94.5%)減少しているが、28年度の診療報酬改定に伴う研修企画により、ステップアップ研修は98.4%と目標設定95%をはるかに上回った。その他、資格修得研修が受講数712名(94.3%)、看護実践研修が受講数2,527名(79%)であり、看護実践研修等定員に満たない研修はホームページ等で広報を行い、再公募等の対応を行った。
- ・28年度の診療報酬改定に伴い「認知症ケア加算2」の施設基準を満たす適切な研修に該当する研修は応募受講数が定員の4倍になったため、追加研修を開催するなどして各施設必ず1名は受講できるように対応した。
- ・29年度は、実績評価に基づき生涯教育研修を検討し、特に看護実践教育の目標値を下回った研修について評価し、社会情勢と会員ニーズに沿って「在宅支援」の視点を取り入れた研修コースを増加した。

平成28年度 生涯教育研修 参加状況

研修No	研修名	実施日数	研修開催日	定員	応募者数	決定者数	受講者数	保健師		助産師		看護師		准看護師		その他	
								会員	非会員	会員	非会員	会員	非会員	会員	非会員		
1	医療安全管理者養成研修会【診療報酬加算対応】	7	9/1 ~ 9/9	120	117	110	109	-	-	5	-	104	-	-	-	-	
2	認定看護管理者教育課程ファーストレベル -第35回-	29	6/10 ~ 7/26 10/4	80	93	88	86	-	-	4	-	82	-	-	-	-	
3	認定看護管理者教育課程セカンドレベル -第16回-	39	9/2 ~ 11/18 2/3	30	35	35	33	-	-	2	-	31	-	-	-	-	
4	AHA (アメリカ心臓協会) 心肺蘇生法トレーニング BLSコース (一次救命処置)	A	1	5/14	60	98	60	60	1	-	1	-	50	6	2	-	-
		B	1	5/15	60	80	59	57	-	-	2	-	53	2	-	-	-
		C	1	10/22	60	86	60	56	-	-	-	-	48	4	4	-	-
		D	1	10/23	60	79	60	57	2	-	3	-	50	-	2	-	-
計	4		240	343	239	230	3	-	6	-	201	12	8	-	-		
5	AHA (アメリカ心臓協会) 心肺蘇生法トレーニング ACLSコース (二次救命処置) A日程 【亀田会場】	A	2	9/17 9/18	12	20	12	12	-	-	-	-	12	-	-	-	-
		B	2	12/10 12/11	15	47	15	14	-	-	-	-	14	-	-	-	-
		C	2	1/14 1/15	10	13	11	11	-	-	-	-	10	-	1	-	-
計	6		37	80	38	37	-	-	-	-	36	-	1	-	-		
6	AHA (アメリカ心臓協会) 心肺蘇生法トレーニング PEARSコース (小児救命処置)	A	1	7/23	24	29	24	23	-	-	1	-	22	-	-	-	-
		B	1	8/27	24	31	29	28	-	-	1	-	24	2	1	-	-
計	2		48	60	53	51	-	-	2	-	46	2	1	-	-		
7	訪問看護師養成講習会「訪問看護研修ステップ1」	3	7/1 11/19 2/14	40	32	30	30	-	-	1	-	29	-	-	-	-	
50	千葉県喀痰吸引等指導者養成講習	2	8/3 8/4	60	49	48	46	1	-	-	-	27	18	-	-	-	
51	実習指導者講習会 (特定分野7日間コース)	7	9/7 9/28	40	27	27	24	1	-	-	6	6	11	-	-	-	
52	実習指導者講習会 (40日間コース)	44	10/6 12/9	60	66	66	66	-	-	3	-	50	13	-	-	-	
小 計 (資格修得)					755	902	734	712	5	-	23	6	612	56	10	-	-
8	新人看護職員研修Aコース (実習あり)	A	15	4/27 ~ 11/4	15	15	15	15	-	-	-	-	11	1	3	-	-
	新人看護職員研修Bコース (実習なし)	B	9	4/27 ~ 11/4	20	32	32	32	1	-	-	-	18	4	3	6	-
	・情報管理・感染管理	C	1	4/27	15	1	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	・摂食・嚥下障害のある患者の食事介助・基本姿勢と態度)	D	1	4/28	15	1	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	・フィジカルアセスメント	E	1	5/9	15	15	15	15	-	-	-	-	6	7	2	-	-
	・心電図・心肺蘇生法 (BLS)	F	1	5/10	15	4	4	4	-	-	-	-	1	3	-	-	-
	・スキニング	G	1	6/7	15	10	10	10	-	-	-	-	4	4	2	-	-
	・与薬の技術と薬剤管理・医療安全	H	1	9/14	15	2	2	2	-	-	-	-	1	1	-	-	-
	・物品管理と経済効果・死後のケア	I	1	11/4	15	9	9	9	-	-	-	-	6	-	3	-	-
	新人看護職員研修	計	15		140	89	89	89	1	-	-	-	47	21	14	6	-
	新人助産師研修Aコース (実習あり)	A	15	6/16 ~ 10/24	10	2	2	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-
	新人助産師研修Bコース (実習なし)	B	9	6/16 ~ 10/24	10	8	8	8	-	-	7	-	1	-	-	-	-
・産科補償制度・産科ガイドライン・助産ケアの実践	C	1	6/16	10	9	9	9	-	-	7	-	1	1	-	-	-	
・ハイリスク妊産婦ケア	D	1	6/21	10	10	10	9	-	-	7	-	1	1	-	-	-	
・新生児のフィジカルアセスメントとケア	E	1	6/22	10	8	8	8	-	-	7	-	1	-	-	-	-	
・新生児蘇生法	F	1	6/23	10	3	2	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	
・助産師のリスクマネジメント—産科救急・CTG判読—	G	1	7/14	10	11	11	11	-	-	8	-	2	1	-	-	-	
・糖尿病妊産婦へのケア	H	1	7/20	10	11	11	11	-	-	7	-	3	1	-	-	-	
・与薬の技術と薬剤管理・医療安全	I	1	9/14	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・母乳育児	J	1	10/13	10	11	11	11	-	-	8	-	2	1	-	-	-	
・家族への支援・リフレクション	K	1	10/24	10	9	9	8	-	-	7	-	-	1	-	-	-	
新人助産師研修	計	15		110	82	81	79	-	-	62	-	11	6	-	-	-	
10	新人看護職員研修責任者・教育担当者研修		5	8/25 8/26 8/29 9/16 9/26	60	67	67	65	-	-	2	-	59	4	-	-	-
11	実地指導者研修	A	3	8/8 8/9 8/10	120	112	109	109	-	-	4	-	95	10	-	-	-
		B	3	9/28 9/29 9/30	120	123	120	118	-	-	3	-	104	11	-	-	-
12	フレッシュセミナー (春・秋)	A	2	5/23 10/5	120	155	152	151	3	-	1	2	122	20	1	2	-
		B	2	5/24 10/6	120	140	140	140	1	-	5	1	107	23	3	-	-
		C	2	5/25 10/7	120	134	131	131	-	-	3	-	103	18	5	2	-
		D	2	5/26 10/11	120	114	113	113	1	-	2	-	93	14	3	-	-
		E	2	5/27 10/12	120	155	155	155	2	-	2	-	137	11	3	-	-
		F	2	5/30 10/13	120	120	120	120	1	-	-	-	104	11	3	1	-
		G	2	5/31 10/14	120	97	97	96	-	-	-	-	81	10	2	3	-
		H	2	6/1 10/17	120	98	98	98	-	-	3	-	73	18	1	3	-
		I	2	6/2 10/18	120	118	116	116	-	-	1	-	99	9	5	2	-
		J	2	6/3 10/19	120	85	80	78	78	-	-	1	-	67	8	2	-
計	20		1,165	1,211	1,200	1,198	8	-	18	3	986	142	28	13	-		
13	2年目ナースに求められるメンバーシップ	A	1	5/11	120	134	133	133	-	-	3	-	123	1	5	1	-
		B	1	5/12	120	125	124	123	2	-	3	-	112	2	4	-	-
		C	1	5/13	120	128	126	125	1	-	6	-	113	3	1	1	-
		D	1	5/16	120	130	129	128	-	-	2	-	122	4	-	-	-
		E	1	5/17	120	131	130	127	-	-	3	-	118	3	3	-	-
		F	1	5/18	120	127	127	127	1	-	2	-	117	-	7	-	-
		G	1	5/19	120	129	127	127	2	-	1	-	122	-	2	-	-
計	7		840	904	896	890	6	-	20	-	827	13	22	2	-		
14	人を育てる臨床実習	2	1/18 1/19	120	135	127	122	3	-	5	-	111	3	-	-	-	
15	頼れるリーダー ~看護の本質を見据えた看護実践~	2	11/24 11/25	120	104	96	96	1	-	2	-	92	1	-	-	-	
16	頼れるリーダー ~チーム力アップをめざすファシリテーションの技法~	2	11/30 12/1	120	130	125	122	1	-	1	-	119	1	-	-	-	
17	看護補助者教育責任者研修 ~看護補助者の活用推進のための看護管理者研修~	2	1/23 1/24	60	147	113	111	-	-	6	-	105	-	-	-	-	
18	看護管理者研修	5	7/28 7/29 8/23 8/24 10/3	60	69	63	63	1	-	2	-	59	1	-	-	-	
19	働きやすい職場環境づくり ~ワーク・ライフ・バランス~ (看護管理者研修との合同研修) 【オンデマンド 2研修会】	1	7/28	80	56	48	48	-	-	1	-	46	1	-	-	-	
小 計 (段階別)					3,115	3,229	3,134	3,110	21	-	120	3	2,661	214	64	21	-